

(註二) パーカー 2 China hand of *Prüfung* 三五頁。

(註三) マルクス 資本論、二卷。一一二頁。

(註四) ヲグナー 4 A Die Chinesch hand Thir isehaft 110五頁。

(註五) 5 Chinese Economic monthly No. 11八頁。

(註六) 6 Chinese Economic monthly No. 九二二頁。

(註七) 7 Chinese Economic Journal No. 111七〇頁。

(註八) ボーリン、ヨルク共著 The peasant movement Kwantung

有角獣は食用としては大なる役割を持たない、宗教的思想に基いて、多くの中國人は牛肉を食はない。だがからつぽになつた腹は、何等の佛教の信條を遵守することを阻害した、かつ近來屠殺税が既に創られたことは家畜の屠殺が流行してゐることを證明する。

牛乳とバターはたゞ外國人に賣られるに過ぎない。これは外國人の需要する關係に基くもので、牛乳業は外國人の手に握られて居る。中國人は牛乳の香さへもかつて香いだことがない！ 中國に於ける羊毛の利用は、只絨氈の製造に限られ、其の餘剩原料は主として米國に輸出される。駱駝絨の地位もまた同様であり、絨毛は中國の衣料として用ひられてゐない。皮革も又輸出される、何故ならば、大多數の中國人は裸足であるか又は草履を用ひ、富裕な家に於ては絹布製の鞋を用ひてゐる。羊牧業は只新疆と甘肅（四教區域）及び山西・四川等の省に於てはある程度の作用が形成されてゐる。中國の農

民經濟に於て、たゞ養豚業と養禽業のみが多少の顯著な作用を持つてゐる。米國と英國では中國式の豚と家禽が最も優秀であるとされてゐる。くわしく中國の事情を知る者の意見によれば、中國の養豚と養禽の方法は、吾々の一切の批評に値ひしなないと云ふことである。家禽、豚家畜等の飼育はたゞ無用の廢物と見做なされ、かつ冬期に入れば餓へに苦しまねばならぬ。なぜなら、彼の主人の大多數も同じく餓へと寒さにおのゝかねばならぬから。國際市場の壓迫から、揚子江流域では近來養豚業が増加した、より正確に云へば——ハムの製造業が發展した。鶏卵の輸出の増加鶏卵の製造業——蛋白製造業も又發展して來た。ヘルワードの意見によれば、中國人は極めて早くから明白に牧畜業を應用することを知つてゐたし、且つ市場的條件に阻害せられない地方では、彼等は現在も尙ほ其の古い知識の殘滓によつて（例へば山東省の北部の如く）巨大な成果を收めてゐる。三百年前、中國の學者徐光啓は六十冊の著作を書き著して、農業と牧畜業に貢獻した。一九一二年、農商部はこれらの著作に少しばかりの改修を加へ新らたに之を出版せんとする時に當つて、彼等は徐光啓が農業と牧畜業の二つの部門に於て完全に正確であつたことを發見した。

(註) Chinese Economic Journal No 5.

吾々は中國經濟史に僅かに表面的な觀察を加へたに過ぎず、充分な認識は持たないが、吾々は深く中國に於ける牧畜業は、かつてかの歐米に於ける牧畜業の如き地位を占めはしなかつたが、牧畜業が過去の中國に於てなし遂げた作用は確かに現在に比してより大であつたと信ずる、疑ひもなく耕作動

物の農業に於ける地位は、最近十年來より過去に於てより大であつた。(註)周朝に於ては(耶蘇紀元前一二二二——二五六)尙ほ收場は存在してゐた、牡牛は耕作動物の最も主要な代表であつた。中國の古代にあつては、馬は軍事的技術の上に於て最も主要な作用を占めてゐた。

(註) 次に引用する主要なものは翻譯した文献と記述である。

當時の軍事單位は四頭立馬車を先頭としてゐた。三軍の將軍が馬車に乗り、車の後ろと横には二十五人の衛兵を配し、衛兵の後部には七十二人の歩兵が隨つた。當時中國軍は既に騎馬隊を持つてゐた、何故ならば、戰爭に際しては、中國軍は高原の上では弓戰によつて勝利することが出来るが、平原では騎兵はより容易に中國式の戰鬥配置を攪亂し易かつたからである。(註一)

(註一) The ancient History of China

吾々は二世紀に書かれた史記のうちに、中國に於ける疫病の激烈な傳染及び貧農が富農から家畜を借りたと云ふことの最初の敘述を見出すことが出来るし、且つ政府が貧農に特殊の形態の犂等を支給してゐること等の事實を指適出来る。かゝる犂は家畜を用ひないでも利用しうるものであつた。四五世紀に於ては、次第次第に耕作動物の不足及び家畜の屠殺禁止等のことを敘述してゐるのを見出すことは困難である。明朝の時に於ては、次の程度に迄達した、即ち皇帝の上諭がしばしば官吏をして農民に家畜を支給し、農民をして荒廢せる土地を開墾せしめ衣食を得せしめたことを明らかに敘述してゐる。當時すでに彼等は、車輛と草原の不足に氣がついてゐた、明らかに家畜の凋落及び其の活動力

の低下は、決して中國經濟の「自然に形成された特色」ではない、印度に於ても同様であり、それは單に具體的に歴史と經濟的條件に基く結果に外ならない。

歐洲の殆んど凡べての地方が、森林伐採、水利、狩獵及び牧畜に於て單に極めて少數の人民の生計を維持し得てゐた時に、極東の人口稠密な地帯に於ては、食料の問題が発生し始めた。

極東の人民は多くの問題について、すでに其の經驗から幾多の十九世紀の農業科學の成果をたしかめたばかりでなく、食糧の方面に於ても、彼等が長期に亙る觀察によつて到達し得た所の成果は、現代の科學が最近に至つて分析し始めた所と合致してゐる。

科學はやつと二十年前に至つて百石の穀物は少く共五倍強の滋養分を包含し得、且つ其の包含するところの量は、家畜に食はれることによつて出來上つた肉と乳の滋養分の五倍以上に達する」(註二)と云ふことを證明し得たに過ぎない。

(註二) ホプキンス著 *Soil Fertility and Permanent Agriculture* 一三四頁

吾々は菜食論の宣傳者ではないが、右に引用したホプキンスの云ふ意見に照して、多くの實驗は家人が人類の食料品と滋養分を生産する浪費的な機械であることを證明してゐる點を指適せねばならぬ。何故なら「家畜に用ひられる植物性の食物の滋養分の大部分の消化は空氣中に消失する。あだかも、薪が暖爐の中で燃へて、生み出されるものが溫暖だけであり、木質は空氣中に消失するに等しい」からである。ホプキンスは興味深い英國試験場の統計によつてより確かな證明に達した。この證明は百

ブードの穀物が各種家畜に食はれた後の結果についてである。

一ブードの乾燥飼料

	家畜の成長に用ひられる量	糞類に轉化する量	空氣中に消失もる量
牛	六・二	三六・五	五七・三
羊	七・〇	三一・九	六一・一
豚	一七・六	一七・六	六五・七

ホプキンスは更に彼の推論を續けて云ふ……「然して經驗は吾々に教へる……人類は其の身體に於ては其の三分の二だけを家畜類から得られた滋養分によつて構成してゐる。もしも家畜を食用とする事によつて、吾々が百ブードの滋養物を取らうとすれば、換言すれば、百ブードの滋養分である乳と肉とを取らうとすればそれが有角動物による場合は、實際にはこの百ブードのうち僅か六ブードを得るに過ぎず。もし羊によるとすれば七ブードを得ることが出來、豚による場合には十七ブードを得ることが出來る。」(註)

(註) Farmers of Forty Centuries.

かゝる試験について、吾々は充分に知つてゐない、吾々はホプキンスの偉大な權威に信賴を置いて之を信じよう。然して、疑ひも無く彼の叙述は吾々に中國人が極めて早くから極めて重大に營養問題を

提起したこと、及び早くから菜食に轉向した原因を説明する。又、有角動物が何故穀物を肉又は牛乳に造り變へる所の機械とならなかつたか、及び、何故に有角動物が既に人類に食料を供給する機能を果さなくなつたに拘らず羊と豚が尙この機能を維持し得たかを説明する。もしホブキンスの云ふ所が正確であれば、吾々はこの事實から極東に於て半菜食制に轉向し、有角動物が肉と肥料を供給する二つの役割を無くするに至つたことを理解することが出来る。

人民の營養問題は最も古い時代から極東各國に於ては極めて重大な問題であつた。同じ大きさの土地であつても、極東にあつては歐米に比してより多くの營養物を人に供給する。かくて、極めて自然に民衆の觀察と研究は經驗によつて決定せられるに至つた。「如何なる食物が——植物であるか又は動物であるか——より多くの營養價值を包含するか、且つ一定の土地間に於て如何なる植物が最も多くの食料を得ることが出来るか」と。西方に於ては二十世紀の初め科學が始めてかゝる問題の研究を始めた、それは、西方に於ては極東の如く食料品問題について切迫したことがかつてなかつたからである。と、共に現代科學の研究の結果を考察して見れば、吾々は極東の人民が、數千年の彼等の經驗に基いて既に極めて正確に極めて適當に自己の田園を利用して最大多數の人口を養つてゐると云ふことを認めざるを得ないであらう。正にこれこそ人間の營養の觀點から各種の動物と植物の價值に關して科學的研究が到達した結果である。次の圖表を一見すれば、吾々は次の事實を理解するに至るであらう。

(註) この表はムツケルデの著「Rural Economy of India 九八頁。から摘要した。

食品名	一ブードの 滋養料の (熱力單位)	豊年時に於ける一畝 からの收穫量ブード (單位)	豊年時に於ける一畝から の收穫の (熱力單位)	各種滋養料 の麥粉に對 する比例%
麥粉	一、六六〇	一、八八〇	二、九八八〇、〇〇〇	一〇〇
牛肉	一、一三一	二〇〇	二六六、〇〇〇	七
羊肉	一、二七五	二五〇	三一八、七五〇	一一
乳	三二五	四、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	四三
穀類	一、五五〇	三、六〇〇	五、五八〇、〇〇〇	一八六
燕類	一、八六〇	一、八〇〇	三、三四八、〇〇〇	一一二
米	一、六三〇	二、四〇〇	三、九一二、〇〇〇	一三一
米又は麥團子	一、六三〇	一、八〇〇	二、九三四、〇〇〇	九八
豆	一、五九〇	二、四〇〇	三、八一六、〇〇〇	一二九
馬鈴薯	三二五	二四、〇〇〇	七、八〇〇、〇〇〇	二六〇
甘薯	四八〇	三六、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四八二

一畝の田地から得られるところの肉類は——豚肉又は羊肉——之を植物性品のカロリーと比較すれば少く共十倍から七十倍のカロリーの少いことを知る。

牛乳は如何なる植物性の熱力カロリーに比較しても、二分の一乃至十分の一に當る。單に植物性の營養物に關して云へば、一エーカの土地から得られる全カロリーは米、穀物、馬鈴薯、甘薯に於て最も大である。勿論、次の様な事實も考察せられねばならぬ。即ち各種の植物は土壤からどれだけの營養物を攝取するかと云ふこと、そこで吾々は最も有用な植物を求めるとそれは稻だと云ふことを知るであらう。その外吾々は植物の成熟期間をも考慮せねばならぬ。そこで、この觀點から考察しても稻が最も有利な植物であることを知る、氣候的條件が好都合にゆくならば、稻は年に二回又は三回の收穫が得られる。吾々の見る所によれば、かゝる情態は人口稠密な極東に於て、古代から人民が肉や乳を用ひなかつた理由を説明するものである。これが又牧畜を經營しなかつた理由であり牧草地が田園に變じた理由である。又それから何故極東の人々が遙か古代から米を栽培してゐたかの理由である。

現在極東に於て、殊に中國に於て、農業生産は一つの大きな變動を經過してゐる、それは甘薯が稻類を排除し始めたことであり、この種の圖表は吾々の爲めに其の原因を説明する。(註)右の圖表から明らかに看取される如く、一ブードの甘薯が含有するところのカロリーは米のカロリーに比すればほとんど四分の一に過ぎない、だが、一畝の土地から甘薯の得られるカロリーは、かへつて米から得られるカロリーの三倍半に達する。實際に吾々は日本、中國、朝鮮等の地方で、甘薯の流布せられる速度が實に驚くべきものであることを見る。日本は一五八九年オランダ人から馬鈴薯の栽培を學び、中國も又十六世紀に馬鈴薯の栽培を知つた。だが中國人の知り得た馬鈴薯が劣種のものであつた時には、こ

の植物は中心的な栽培植物とはなり得なかつた。甘薯の轉搬は三四年前に開始せられたものだが、この時からそれは不斷の勝利の歴史を經過した。日本に於ても同じく三四十年前始めて自己の道を切り開いたに過ぎないが、現在甘薯は人民の食料品として極めて顯著な地位を占めてゐる、貧窮な人民はもはや米を用ひないで馬鈴薯を用ひてゐる。中國に於ても又同様な過程が見られる。普通の條件の下に於ては、一畝の地から二千ポンドの馬鈴薯を得ることが出来る。中國の土地と氣候的條件及び農業經濟の道具（深く耕さない）は凡べて馬鈴薯の栽培に適してゐる。豆、碗豆等の植物を採取した後、もし更に、馬鈴薯を植へ、且つ糞又灰燼等の肥料を施せば、馬鈴薯の生長は必ず見るべきものがあるだらう。天氣の乾燥せる時は必ず灌漑せねばならぬ。灌漑の技術は中國の農民も持つてゐる。

甘薯は收穫期の關係からまた稻と競争することが出来る、其の上長江の下流では甘薯は毎年三度の收穫が出来る。この外甘薯の需要する肥料は稻の必要とする量に比して少い。今米一畝に必要な肥料の價格を八元から十元とすれば甘薯の必要とする肥料は一元から三元位に過ぎない。かゝる原因によつて、馬鈴薯は米に勝利することが出来た。日本の農民は毎年すでに四五、〇〇〇噸の甘薯を要求してゐる中國に於ても「廣東に於ては甘薯が米に取つて代る現象は、桑が稻に取つて代る現象に比してより多く、より普遍化してゐる。廣州大學の農業科は廣東省三二一縣を研究した結果、次の事實を發見した、即ち馬鈴薯と甘薯は農村人民の食品の中に於て第二位を占めてゐる。馬鈴薯の顯著な轉搬、それに引き續いて米は排除せられる。馬鈴薯は正に最も主要な食料とならうとしてゐる。

浙江省に於てはたゞに農民のみに限らず漁民もまたすでに米食せず馬鈴薯を食してゐる。優良な食料品から劣悪な食料品への轉化は、南部及び中部各省に於て等しく見られるところの現象である。ドイツ、チェッコ、スロバキヤ及びバルチツク沿岸諸國に於ては、馬鈴薯は食料品として極めて主要な地位を占めてゐる。たゞこれらの諸國に於て馬鈴薯が用ひられる時には其他の生産品も又用ひられる。スラブの一部人民間には、ハンガリヤ資本の残酷なる搾取の結果貧困は極點に達したが爲めに、馬鈴薯は彼等唯一の食料品となり、かくてこの故に一種の特殊な、即ちカオルヨと稱する疾病が發生した。優良な食料品から劣悪な食料品への轉化の爲めに、中國に於てもかゝる病症が民族的病症になつた。

だが、中國の農民及び日本、印度の兄弟達は、彼等の階級的地位から見れば、現在に於ては、快適な、有効な、立派な食料品を要求することは夢想だにし得ない。彼等はあらゆる田地を利用しなければならぬし、出来るだけ彼等の營養料を低下せしめねばならない。この二つの目的が植物性食料を採取するに至らしめた。今かりに中國の家が五人によつて組成されてゐるとすれば——北京醫科大學教授バナタリトの計算によれば——一三・六八三のカロリーを必要とする、だがかゝる食料の市場價格

は、之に相當するイギリスの日常食料品に比較すれば三倍も安い、英國の食料品も同じくかような大量の蛋白カロリーを供給することはするが、英國の食料品中には動物性生産品が尙含されてゐるだけの差異である。

(註) テーラー著。The Study of Chinese Rural Economy

吾々は更に歩を進めよう。

牧畜業にあつては生産期間はひき延ばされ、且つ極めて少ない労働力が用ひられるに過ぎない「一部分の家畜——家畜の蓄積——は生産過程中に保留されると共に、他の一部分は生産品として作られ賣り出される……毎年僅かに一部分の資本の回轉がなされるに過ぎない……一部分の資本は長期の生産過程に於て停滯する、かくて全資本の回轉を緩慢にする」(註) かゝる事情は極東に於ては特殊の意義を持つ、何故ならば、極東に於ける農業資本の回轉の速度は、之を歐米のそれと比較すれば二三倍の速度を持つてゐる、其の原因は主要植物の成熟期が特別に短かいことに基く。我々は既に見たところであるが、中國に於ける一切の樹木のうち、たゞ楊柳の栽植のみが相當に普遍化してゐるだけである、これは、楊柳の生産期は僅かに五六年であり、其他の樹木は一二年から十四年も要し、且つ楊柳は最も河畔に栽植せられるに適當した樹木であり、それは容易に河邊、湖畔及び灌漑池沼等の地に栽植せられ易いからである。中國の經濟の内に於て、養豚、飼羊、養禽、養魚等は多少とも重大な作用を形成してゐる、これらの生産期は牛馬の生産期に比較して極めて短かい。極東農村經濟の資本の

缺乏してゐると云ふ條件の下に於ては、かゝる事情は極めて大なる意義を持つものである。

だが、吾々にはこゝで二つの最も明瞭な特色について指摘せねばならぬ。養豚業は中國の南北兩部に於て一様に發展してゐる。だが、養禽業はいさゝか異つて居る。北方に於ては主として養鶏を南方に於ては鴨鵝等の水禽が養はれてゐる。で、南方では鴨が禽類を代表し、北方では鶏が禽類を代表してゐる。かゝる相異は同じく耕作動物にも表れてゐる、北方に於ける耕作動物のテピカルなものは馬、騾、驢であり、南方では、水田と濕地が主である爲め耕作動物は牛である。比較的餘力ある經濟では必ず牛が養はれる。北方の貧農は驢、騾を飼ひ、富めるものは牛馬を飼ふ。小作農經濟には全く耕作動物がない。水牛は泥澤及水に抵抗するに適當してゐるから、水田の耕作動物となつた。だが、吾々が既に見た如く、水牛の經濟生活の中に於ける比重は、歐米農村經濟のうちに於ける馬の作用と意義とに比較し得ない。

牧畜業が、餘り發展しない他の原因は、極東殊に中國に於ける歴史的に累積して來たところの小農經營と小作農經營が土地使用形態をなしてゐるからであり、最も明らかな事はこの形態は土地占有の集中を免れ得ないからである。小農經濟は最も經濟的に耕作動物を利用することが出來ない、且つ經濟の零碎化と分散化の過程が進むに従つて各種の原因例へば繼承權の如き、又地主がより搾取を加重せんが爲め小作料を分割徴收し農民經濟の基礎を破壊するが如き等々の爲めに遂に適當な家畜利用が更に困難となる。バック教授は彼の安徽省蕪湖附近の一〇二個の經營を研究した結果に基き、次の如

き結論に到達した！ これらの經營單位の全耕作獸は平均毎年二十四日間使役せらる（註）そのうちで十畝以下の經營に於ては毎年平均一四日間、十畝乃至二十畝の經營に於ては、二一一・四日間、二十畝乃至三十畝に於ては、二一四・九日間、三十畝以上に於ては三〇三・日間使役せられる。

バックは直隸省一五個村の經濟を研究した結果、次の如く指摘してゐる。（註）これら經營に於ける耕作獸使用日數は平均毎年六一日間であり、其のうち一〇畝未滿の經營に於ては、四〇・六日間一〇乃至二〇畝の經營に於ては五一・八日、二〇乃至三〇畝の經營に於ては、七一・七日間、三〇畝以上の經營に於ては、六二・五日間使役せられる。

耕作獸はたゞに冬季四ヶ月の間全く活動を停止するのみでなく、夏季の二ヶ月に於ても又勞役に用ひ得ない。この期間に於て、家畜は饑餓に直面せねばならず、家畜の飼育は最低限度に低下する。リヒトホーヘンは既に明らかに指摘してゐる。中國に於ける土地使用の零碎な結果は、中國の耕作用動物に懶惰な性質を助長せしめ、僅かしか利用せられない。又家畜の勞働力を用ふるに足るべき土地がない。バックも云ふ。「如何に牲畜を利用するかは全中國的問題の一つである、」これは完全に正し。

（註） An Economic and Social survey of 102 Farms 五頁。

農産物の商業化の發展は、より獸疫流行の可能を増大した。日に没落する營養の不良な家畜は疫病の傳染に抵抗することが出来ない。これによつて中國、印度、印度支那の北方に於ける疫病流行の特別

に凶烈な原因を解き明すことが出来る。たゞ良好なる國家組織のあるところに於てのみ、合理的に獸疫と鬭争することが出来る。日本の政府はすでにこの任務を相當に果たした。中國政府は極度に腐敗してゐるが爲めに、かつていかなる社會的公共事業をも成したことがなかつた。一九二六年、蒙古に於て疫病の流行した爲め、牛類の死亡は數萬頭に達した、だが政府はこの疫病と鬭争する爲めに如何なる方法をも取らうとはしなかつた。

最後に、家畜に取つては、自然的貧困が人に比してより凶烈であることである。サヴェート同盟のパオルスキーの饑饉に際して、吾々はこの情態を見る事が出来た。中國に於ては、國家の政府がかかる自然的貧困に對して、何ら積極的な救助を與へることが出来ないが爲めに、其の影響はより凶烈であり、より残酷となる。かかる時期に於て、牲畜には、たゞ死亡か又は賣り拂はれて屠殺せられるかの途しか残こされない。直隸省に於ける一九二〇——一九二一年の水災に際して、七十五%の貧農の耕作動物は悉く死亡しさるか、或は賣り拂はれてしまつた。一九二五年、貴州に於ても又同様の事實が発生した。其の上、軍閥戦争によつて醸成せられる家畜の減損はこれを農村經濟の貧困に比してより甚だしい。かつてバツクは云つた。最も偏遠の荒廢せる縣市に於て、農民は縣城より三里を距たる地方にあつては、家畜を飼育しやうとしない。それは軍閥の爲めに徴收せられることを恐れるが爲めである。

都市附近に於ける家畜の缺乏は又園藝發展の原因である。ウリヤノフはかつて云つた。モスコフ附

近に於て、一種の家畜を必要としない理知的な經營が發展しうる時がある。中國に於ける園藝にとつてこの言葉は極めて正確である。だが軍閥の家畜徵收はこの状態により大なる影響を與へた。アメリカ貧民救濟委員會の研究せる結果によれば、一九二五年貴州と四川南部の廣大なる饑饉と荒廢の最も主要なる原因の一つは、實に軍閥の家畜徵收に基くものであつた。

帝國主義——これが中國農村經濟の必然の貧困化の原因である——は更に耕作用動物の中國農村經濟内に於ける地位を惡化せしめ、一八六四年より一九一四年に至るこの六十年の期間に於て、家畜の價格は一八〇%——二〇〇%騰貴した。而して一九一四——一九二三年の期間に於ては、又一六〇%から一八〇%に高められた。過去に於ては、中國の經濟は蒙古人、回教徒の牧畜業者との交換によつて、彼等の家畜の不足を相當に補充することが出來た。併し、現在に於ては、これらの地方の牧畜業は既に衰微し、それに牧畜商品は輸出される。印度の英國兵は中國の騾馬を悉く買ひ取つてしまつた。かくて、まづ最初に植物性食物が人民の食料品の中から動物性食物を排除し、現在に於ては、吾々は劣惡なる食料品が良好なる食料品を排除しつゝあるのを見る。家畜は現在、食料品供給の上に於て何等重大なる役割を持つてゐない。即ち輸出品として供給することに於て、それはたゞ損失を招く一つの機械であるに過ぎない。

家畜は紡績業に對しても又原料を供給しない。人力は家畜を運輸方面から驅逐し去つたが最近に於てはある種の機械も又驅逐されつゝある。人力は等しく馬、騾、驢、牛等を農業の耕作動物のうちか

ら驅逐し去つた。

かゝる經濟的・歴史的、社會的、政治的原因が結合して極東經濟内に於て殊に中國農村經濟内に於て、家畜の作用が歐米のそれと比較し得ざる程小さくなつた。

極東に於ける農村經濟及び中國經濟に於て最も主要なる特徴こそ中國經濟が歐米と異なる特殊性である、濠洲との相異については、更に論及するに及ばないであらう。濠洲に於ては、牧羊業の形成する所の作用は、麥の生産と並列することが出来る。

吾々は更に一つの極めて重要なる事情を指摘せねばならぬ。一般的法則に従へば、極東に於ける牛は一種の「祭祀的な動物」である。牛は肉食の爲め屠殺することが出来ない、何故ならば牛の屠殺は禁ぜられてゐるから。かゝる事情は、印度に於て特別に重要なる役割を成すに至つた。例へばピンヤオポ州に於ては英國と印度の専門家の意見に従つて、家畜中の一半は牛乳を採り勞役に用ふることが出来ない、それらの牛は無制限に集められる。だが、集められる牧場は設備されない、經濟上に於てそれらは何等の助けともならない。そして又充分な食料で飼養されると云ふこともない。これが、印度に於ける一般的現象である。宗教的傳説は適當な經濟計劃よりもより強力である。かゝる事情は中國に於ても印度の如く顯著ではないが印度と變るところはない。中國の大部分は、經濟上に於て、無用の家畜は經濟的負擔を持ち來たらす、それは、一部の勞役力ある家畜の毎年の食糧を奪ひ取つて了ふ。野蠻なる習慣、傳説と宗教的偏見は有角家畜の没落の過程を促進した。

第六章 手工労働

上述せる所から、我々は極東の農村經濟、殊に中國の農村經濟の性質に對して、數個の一般的結論に到達し得る。

その主要な特徴は次ぎの數點である。

第一、極東の農村經濟が、即ち灌漑性の經濟であること。主要なる草本植物、稻及びその他の植物例へば棉花・薩摩芋等々すべて灌漑が必要である。水利の點から云へば、中國の氣候は非常に優れてゐる。なぜなら中國は歐洲と異なつて、多量の雨量は丁度五穀が成熟する際に降るが、然し中國の雨量は、不足であり、且つ又不調である。従つて農村經濟は、早期の灌漑が必要である。これは、極東の農村經濟が、その他の耕作と同様に、主として水源の區域（河邊、湖岸の如き）に發達したことを説明するものである。かゝる一般的現象は、日本もそうであり、印度もそうであり、中國も亦そうである。耕作と農村經濟は、季節風が吹いて雨量が比較的多い地方に於ては、季節風が吹いて雨量が比較的少ない地方に比して、比較的發展するものであつて、日本がそうであり、中國も亦そうである。人口稠密の區域は、水量の供給が主要な一要素である。一年の收穫の豊凶、耕作地畑の多寡、及び一畝からの收穫の數量は、全く水量の供給に依存する。甚しくは、家畜（水牛の如き）及び家禽（家鴨

鵝鳥の如き)に至つては、すべて農村經濟の灌漑性の痕跡を看取し得るものである。極東に於ける生産技術の特質及び社會關係は、水量の豊富な區域に於いて、最も明白に表現されてゐる。灌漑の計劃的調節と組織は、たゞ集體的條件の下に在つて、始めて存在し得るものである。社會制度の發展上に於いて、この一類の痕跡を留めてゐる。灌漑の必要は、さらに排水制度の必要を惹起するものであつて、良好なる排水法がないならば、水田は特に池沼となるだらう。雨量があまりに多量である時は、水量過多で田地への浸水も深かすぎ、従つて田地中の鹽基 (Alkali Soil) は、物理學上の毛細管の作用によつて、上昇するから、耕地は變じて鹽分を含む田地池となる。灌漑の必要から、即ち土地の排水が発生するのである。

第二、極東の農村經濟は、必ず偉大なる灌漑建築及び廣大なる排水制度を建設すべきこと。これは土地には幾多の資本が投下さるべきであり、又幾多の時間が費さるべきであると云ふことであつて、例へば排水溝、灌漑渠、分水界の建設等々、これ等はすべて土地に投ぜられる資本である。

「他の書上に於て、私は土地に投ぜられたかゝる資本を土地資本 (terre capitale) と名づけた。〔哲學の貧困〕一六五頁を見よ)その書上で、私は、土地物質 (terre matière) と土地資本 (terre capitale) との區別を與へた。土地に投ぜられた資本は、すでに生産用具に變じ、資本の新たな費用に併入され、斯くの如くして土地資本を増大するが、土地物質——即ち土地の廣袤は、毫も増大する所がない、土地資本は即ち固定資本であるが、流通資本と併存するものである。然かしてそれは固定

資本の範疇に屬するものである。この時の土地の賣却は、簡単な土地でなくて、改良された土地であり、然かも土地に投ぜられた資本は、資本自身としては何等價值のないものである。これは土地所有者の富を速進させるものであり、不斷に地代を増大せしめるものであり、又經濟の發展と並行して、その土地の貨幣價值を増大せしめる祕術の一つである——これは完全に私有に於ける地代の躍進である。斯くの如く、土地所有者は、毫も費す所なくして、坐してその社會發展の結果を收奪するのである。然かも同時にこれは又合理的農業に對する最大の障礙の一つである。なぜならば、農民は如何なる改良もなすことを避け、又費用を費すことも避けるからであり、それは、この種の改良のため投下した費用が全部回収されるのは、小作期間の満了後であつて、農民がそれ迄到底待ち得ないからである。例へば土地の改造部分と土地に加へた資本は、畢竟地主の所有する所となり、その結果地代のパーセンテージも増大するが如きである。」(註一)

極東の水田は、單に土地物質 (Land material) ばかりでなく、土地資本を含有してゐるものであり我々は土地の價格、小作料の高度、土地の關係を研究して、この種の差異の巨大なる重要さを看取するのである。我々は、マルクスのこの一條の話しが、極東の土地關係を理解する上の主要な鍵であることを感知する。

第三、非耕作地 (即ち一年或は二年耕作を停止する土地) が、深層耕耘とその他の形式の耕作地に代替し得ること。土地は休養させられないし、主要な草本植物、稻類等々は、その自然的條件、灌漑

及び氣候の情勢がその成熟の緩急、生産時期の長短を決定するものである。従つて或る環境の下では、一年内に同一土地から二度或は三度の收穫の可能性がある。北方から南方に至るまで、氣候の情態、即ち必要なる天然の熱度の存在と雨量の豊富、及び灌漑の技術があるので、一年内に、同一土地から二度三度或は四度の收穫の可能性がある。例へば中國に於ては、滿洲は通常一年にたゞ一回の收穫であるが、山東省では二年間に三回の收穫が出来、楊子江流では一年に二回の收穫、廣東省では一年に三回甚しくは四回の收穫ができる。従つて農業資本の運轉は比較的急速である。極東に於ける農業資本の運轉は、歐米に比して、二倍三倍或は四倍の急速さが必要である。我々はこの一點の、一般的土地關係及び一般的社會關係上に於いて、如何に重大な意義があるかを看取する。而してリービツヒの法則は、土地に投ぜられた養分が多ければ多い程收穫も大である、と云ふ。又彼の「最少限度の法則」によれば、異なる植物は、異なる關係に於いて、土地から各種の礦物質の異つた分量を吸收する。然かして土地に存在するものと、植物が相對的に土地から吸收し得る最少限度の礦物質は、收穫の分量を決定する。リービツヒの法則を極東の農村經濟に應用すると、極東の農村經濟は肥料を増加する必要があることが明かである。現在の社會關係の下では、極東の農民は、日本を除く外、すべて礦物質の人工肥料を施し得ない。肥料の主要な來源は、人の身上に在る。印度では、やゝ一部分は混合肥料、一部分は植物肥料をもつて、人糞に替へてゐる。極東の各國は、多く廢物、殘飯を肥料としてゐる。然かして礦物質の肥料でなく、専ら廢物、灌漑、堆肥、灰等々を肥料とすることは、決

して彼の前記の法則の支配を免かれるものではない。この法則は、即ち極東各國の現在の社會關係の下では、又その農業技術と化學的應用の標準の下では、施肥の深度が、まづ農村に住居する人口の多寡によつて決定されるものである。

中國に於ては政治的、經濟的、社會的、及び氣候等々の原因によつて、黃土帶（即ち肥沃地帶）と拓殖區域とがあるが、灌漑と肥料を多量に施すことは、切迫した必要事である。

第四、植物性食料が人類にとつても、家畜にとつても、更らに多大の營養料があり、又衣服や履物（靴や靴下等）の原料品が家畜の毛皮から採取するものでなくて、これも又食物から採るものであり、且東洋民族の營養料から云つて、通常肉類が多大の作用をもつてゐないため、従つて家畜業は或る種の程度まで發展して、停滯したのであつた。従つて、極東の農村經濟は、牧場によるものでもなく、又製乳によるものでもない。而して具體的社會、經濟、及び政治的條件は又家畜労働の作用とその重要性をして、最低限度にまで低下させたのである。

第五、極東の農村經濟が、家畜労働が少なく、機器が全く無いため、又技術と深耕が歐米の農業に比して、さらに多くの労働を必要とするため、又人類の労働力に替る家畜が少なく、且機器もないため、従つて極東の農村經濟は、その區別が人類の労働力——即ち兩手労働の灌漑にあるのである。然かして、耕作技術、例へば煙草、棉花、亞片等々の耕作技術がどれ程困難であるかはまだ言及しないが、米食の耕作を以て云々すれば、それが費す労働力の多いことは、資本主義の發達せる國家の麥作

に比較して、幾倍に相當するかわからない。我々は稲作の實情を一步々々しらべて行くことによつて、それを知ることが出来る。現在各種の稲作をなしてゐる人民は、四種の耕作方法をもつてゐるがすべて相當の程度にまで發達してゐる。

フィリッピン群島、印度支那、及び印度の幾多の山地に於ては、極めて粗雑な方法による山林疎開耕作が行はれてゐる。そこでは、先づ山林を伐採し、耕作用の犂もなく耕牛もなく、鋭く削られた棒で、地上に孔を掘り、その孔に婦人が種子を蒔くのである。帝國主義者は、その收奪の目的から、山林保存を口實として、生産方法に對して、極端な迫害を加へてゐるので、従つてこの方法は今や漸次消滅しつゝある。

技術の點から云へば、乾燥地に於ける陸稻の耕作は、麥の耕作に比較して、大した差異はないが、然し經濟的には、陸稻は確かに多大の作用をもつてゐない。

稻の主要な耕作は水田である。その生産進展の過程は右の如きテンポである。

即ち土地の耕作は、印度・日本・中國・或はジャバに論なく、小區域の土地は、すべて鋤を用ひて耕やし、決して犂を用ふることはできない。甚だしくは犂を用ひて耕やした土地も、やはり再度鋤を用ひて耕やすのであつて、これは稻の耕作地が必ず平坦であることが必要だからである。播種に就いては二つの方法がある。手で播種するか、或は原始的播種機を用ひてやつてゐるかで、その最も後れた生産力の最少なるものはすでに消滅してゐる。

通常稻の耕作には、すべて移植が (Plant here and there) 用ひられてゐる。先づ鋤鍬を用て地層を耕やし、次ぎに肥料を施こし、又渠を作り、次ぎに灌漑し、次ぎに排水し、又重ねて新しく灌漑し又次ぎに苗代に注意し、再び灌漑し、排水し、かゝる眞正のエヂプト式の労働をなして、苗か成長した後、耗作地を耕やして、施肥・灌漑し、一二尺の深さの水田の中に苗を培植するのである。かゝる仕事は大半は女子が擔當してゐる。(二三の地方では完全に男子によつて擔當されてゐるが)、かゝる地獄の如き仕事は農業とは云へない。稻の播種後、稻田の苗代は幾多の労働が必要とされる。それは稻田には極めて容易に水草が発生するからである。カリフォルニアでの大機械による耕作は、稲作の一切の問題を解決したが、今に至るまでもこの苗代の問題は解決し得ずにある。だがカリフォルニアに於ける稻の耗作の最大の障碍は、稲苗に對する水草の妨害である。中國及び日本の稻田に於ける、苗代の仕事は比較的少ない、それは數百年來水草が漸次消滅してゐるからがある。

稻田の灌漑には、多大の手足の労働が必要であり、灌漑用の道具が必要である。もし桶を用ひて注水するならば、一人で毎日平均三畝に灌漑し得るだけである。かりに水車を用ひたとすれば、三人乃至四人の手と足の労働が必要であり、一人十時間平均十二畝に灌漑し得る。一畝の稻田は、灌漑に八日、十日乃至は十二日間の全日の仕事を費し、一季の一畝の平均は二元を必要とするのである。

この外、我々が知る如く、施肥は田に施すものでなく、一株々々の植物に施すものであり、且成熟前に數回施すものである。田園の四圍の雜草清除、水溝の修築は他の耕作に比較して、稻の耕作は

より多くの仕事を必要とする。更らに、極東及び中國では、現在の大鎌 (hayknife) が知られず、ただ鎌 (sickle) を知るだけで、甚しくは小刀 (knife) を知つてゐるだけであつて、ファイリツピン及びジャバ島の土人は、小刀 (knife) を用ひて、一つ一つ穂をつみ取つてゐるが、これは大鎌刀を用ふると天帝が罰すると云ふ迷信から、使用を禁止してゐるからである。中國に於いて高粱をつみ取るのもかかる方法でつみ取るのであつて、高粱の桿は穂をつみ取つた後、一つ一つ刈り取るのである。高粱の桿は家庭内の燃料物となり、甚だしくは建築の材料になる。黄河の堤防は、多くの地方はセメントでなくて、やはり樹木であつて、高粱の桿で築かれてあるのも何等あやしむ迄のことでもない。藁は家畜の食料であり、時には人間の食料にもなるし、藁の根は燃料品であり、藁は常に製紙の原料に用ひられる。ジャバ及びファイリツピンでは、現在でも大鎌、甚だしくは鎌さへも、小刀に替へられてゐないが、これは大鎌を用ひて稻を刈るならば、その他の道具（打穀の如き）も半數は取り換へなければならぬからである。だがこれは貧農が到底なし得る處ではない。

歐洲の農民は、かゝるエヂプト式の労働によつて、採算のとれるだけの多くの穀物を得、又高粱の桿や棉花の幹を何にかに利用しようとすることに就いて想像するのは困難なことである。西洋の農民は牛馬糞を用ひずして、礦物質の肥料を採つてゐるが、同時に極東の農民の家庭は、所有の暇な時間をすべて残糟廢物の集收に費して、残糟廢物を肥料や燃料としてゐる。西洋では耕作機械を用ひて犁に替へてゐるが、極東に於ける趨勢は、鋤をもつて犁に替へ、人工を以つて家畜に替へてゐる有様で

ある。

西洋では機械を用ひて大鎌に替へてゐるが、東洋の幾多の地方では尙ほ小鎌をもつて小刀に替へることも出来ず、又大鎌は小鎌刀に替ることも出来ずにゐる。西洋では、石炭が薪に替つて燃料となつてをり、且ガソリン・電力及び水力はすでに石炭と競争を開始し、農村経済でもすでに電力及び水力が用ひられ始めてゐるが、東洋では、農民の家庭は燃料収集のため植物の根を掘り取るのに莫大な労働時間を費してゐる。同時に硝酸分を増加せしめる微生物の根據地をすべて綺麗に掘り盡してゐる。

かゝる地獄の如きエジプト式の手及び足の労働は、極東に於ける農村経済の他の一つの特長である。土地が小なる面積單位に分割されてゐることは耕作上に於て、又人工の兩手の労働を有利にはしてゐる。極東に於ける農民経済の恐慌は日に益々普遍し、農民の貧窮は日に擴大してゐる、各國に於ては固より異なつた原因があるが、もし徹底的又深化せる土地關係の變革、技術の改良がなければ、極東に於ける農村経済は、殆んど救ふことは出来ない。ただ日本では、施肥の方面及び灌漑や種子の改良に於いて、非常に注意すべき進展が見られる。極東に於ける農民の社會關係は、農民が農業の收穫に應用して農業技術を發展さす可能性を剝奪したが、十九世紀の末葉及び二十世紀の初期には、西洋に於いて、農業上に機械の使用が知られた時期である。然し極東に於ける農民は、現在までも尙ほかかる農業上の技術を、應用することができない。その原因は多々ある。過小農經營は機械を使用して

耕作することができない。この外極東の土地は小さな地積單位に劃分されてゐるのである。又過小農經營は更らに小さな地積單位に劃分されてゐる。そこで人工、家畜、農業の道具等々の合理的應用は更らに多くの困難に遭遇する。日本では、一九〇〇年かくの如き一つ一つに劃分された現象に變革し始め、且二億圓を費してこの目的に到達し、五八八、三一九畝（日本の畝）の土地は、整理以後耕地面積が百分の三、即ち五八八、三一九畝から六一五、〇〇〇畝に増大し、且灌漑及び排水の制度も改良されたし、又耕地も増大し、不必要な道路、耕地の境界、水溝等々はすべて耕地に變へられ、新しく整理された耕地の收穫は、一割増加した。印度に於ては、農民經濟の劃分され分散したる小土地は凶作を避かれる「保證」であつた。

水量の不足は、印度の農業が制限された主要な要素の一つである。印度の農業は、全く偶然的な降雨に依頼したものであつたから、土地が小さな地積に分轄されてゐることが收穫上有利であつた。印度の幾多の地方では、土の性質に應じて、分散したる小區域の土地に、二種或は三種の異つた植物の種を蒔いたので、もし降雨が無い時或は雨量が不足な時にぶつつかつても、或る一種の植物は、水が無いため、枯死することがあつても他の一種の植物は、水が無いため更らに成長したのである。（註二） 中國に於てもかくの如き狭小なる地積による小農經營があるが、これは犂及び家畜の勞働を使用できなかつた原因の一つである。かゝる小區域の土地で、犂を使用するためには、云ふ迄もなく、家畜を往來せしむべき道路も、餘地もなく、又犂を動かすべき餘地もない。のみならず犂を用ふること

によつて、水溝並びに堤防が破壊せられるおそれがある。××縣内の百五十個の經營に於ては四百個以上の狹小の區域の土地をもつてゐる。

然してその根本的原因は、機械がなく、資本がないことにあり、單に單獨の農民經營ばかりでなく幾多の農民經營が聯合して機械を購買する力が無いことにある。極東に於ける灌漑性の農村經濟は農民をして協同に慣れさせた。天災及び天災の預防も、農民に、協同の良好なることの教訓を與へた。

印度・日本・ジャバ・及び中國の農民は、歐洲の兄弟に比較して、一般に農民が一個の階級に組織され易い。印度・ジャバ・及び日本に於ける協同運動の發展は、極東の農民が歐洲の農民に比較して容易に組織されることを證明するいゝ證據であり、又中國の農民運動の歴史、廣東、湖南、及び湖北の農民革命の經驗は、農民の組織の眞に光榮ある例證を留めるものである。而して消費組合の發展せる地方では必らず全力をあげて高利貸と鬭争し、高利貸と密接に結合せる商業資本との鬭争の進展過程に於ては、必ず消費組合の組織をもつたものである。極東の農民は、現在機械を夢想してゐない。即ち貧窮と壓迫は、農民の機械使用にとつてどうとも仕様のない障礙である。

相對的人口過剩、奴隸にも等しい劣惡な勞働も技術の發展を妨害する。これはジャバ・印度・臺灣の大農場に於いて機械の應用が非常に少ない原因だと解釋される。歐米の旅行者の响眼によれば、極東及び熱帯に於ける農業の主要な特殊點は機械がないこと又家畜が少なく、全く人類の兩手に依頼してゐることである（註二）。この様であるから、従つてフィリッピンに於ける幾多の耕作機械は使用さ

れないから錆を生じ、甚だしくは運輸の用さへななくなつてゐる（註三）。かゝる情勢は、日本の大農業家魚岡（？）が「農民が新式の優秀な機械を購入しない所以は、それがあまりに高か過ぎるため農民に購入する力がないからだ」と、憂鬱にも物語つてゐる。これは又、フランス人が印度支那に於いて、機械を使用したか、その結果はなんら成熟しなかつたことを物語るものである。又これはオランダ人が、彼自身の農場で機械を應用したに拘らず、彼の殖民地に機械を運送しようと思はなかつたこと、及び米國人が極東に於いて、若干なりとも農業機械を賣却しようと思はなかつたものと解釋される。米國領事が、中國經濟の機械と機械の應用の前途に對して、どう形容したかを御覽なさい。即ち「農村經濟に於ける道具は、最も原始的である（漢口の米國領事は一著書を表はしてゐる）。一と度び中國の農村經濟に於ける道具を見れば、直ちにヘブライ人の時代を回想する」と。

（註四）

アモイの米國領事は云ふ、「農業の方法と應用されてゐる道具は、非常に原始的である。土地の耕作は、通常人工で、粗末な鋤を用ひて鋤き返してゐるのであるが、時によつては古代の犂さへ使用してゐる。」と（註五）

日本の直接的影響下にある滿洲では、小さな區域の土地は、人工用の鋤或は鍬で耕されてゐるし（註六）、南京の米國領事は商事農業の中心に就いて、「最も原始的な道具が、普通的に應用されてゐる。現在の道具と生産の方法は、必ず農民の購買力が増大する迄待たなければならぬ云々」と云つてゐる。

(註七)。

書籍上に於いて、何等の疑問をも差はさまずに、農業機械が中國の農業内に進入し來たつた事實を擧げてゐる。農業機械が、中國の農業に進入すべきことは、丁度レーニンが「ロシアに於ける資本主義の發達」の一著書で、ロシアの農業が機械を使用することを證明したのと同様であつて、右の數字は、中國に於ける農村經濟の機械輸入を表示するものである。海關の統計によれば、中國には、右の如き農村經濟への機械の輸入があ擧げてある、

一九二二年 三〇四、二三二海關兩

一九二四年 二七九、九七七同

一九二五年 一六一、二八八同

一九二六年 五一一、五四〇同 (註八)

こゝに尙ほ注意すべきは、一九二三年から一九二五年に至る機械輸入の總額は、七四五、〇〇〇海關兩であるが、大連に於ける輸入が合計四七二・〇〇〇海關兩であつて、要するに、中國本部に於ける三年間の農村經濟の機械輸入は合計二七三、〇〇〇海關兩で、滿洲に於て、四七一、〇〇〇海關兩あることである。灌漑の觀點から、輸入すべき機械が、抽水機等々であることは、想像し得るところである。この類の輸入は、海關の統計によれば左の如くである。

一九二三年 四〇四、三四九海關兩

一九二四年 三八一、九二七同

一九二五年 六四二、八八二同

一九二六年 五三三、五九四同

これ等の抽水機の大部分は、通常灌漑の用とならず、たゞ最近五年以來、上海、杭州の近郷で應用され始めたゞけである。滬寧鐵道一帶には、約千個の抽水機があるが、大半は僅か一二馬力のものがある。人工の勞働力を省く點から云へば、これ等の極めて原始的な機械はやはり長足の進歩である。十馬力の一個のモーターは、一〇〇乃至一五〇人の勞働者の一晝夜の仕事に相當する。モーターや抽水機は、小船で運搬し得るため、これは更らに便利であつて、廣く應用されるに至つた。上海では、すでにこの種類の機械を製造する手工場さへある。某公司の如きは、一九二六年數百個の機械を製造した。浙江及び安徽に於ける都市の近郷では、機械を應用して灌漑してゐる。大概機械は、商人と官僚が組織する株式會社の手にあつて、會社から賃貸してゐるが、一畝の田地に灌漑する賃料は一・二元である。單獨の農民經濟は、明かにこの類の機械を購買する力がない。しかも、協同運動は、中國ではまだ開始されてゐないのである。印度・ジャバ・朝鮮・及び日本に於ては、支配階級と政府は、農民の協同運動を組織し援助し始めたし、ベンガル（印度）の一地方に於ては、協同運動が五、〇〇〇、〇〇〇人の農民經濟を包含してゐるが、甚だしくもこれ等の國家では、機械の購買など夢想だにせしめて、協同運動はたゞ高利貸との鬭争に限られてゐる。中國に於ては、華洋義賑會（米國人の）災荒救

濟の愚劣なる企圖の外、協同運動の組織、甚だしくは高利貸反對のための協同運動の組織さへ企圖されてゐない。米國人が指導する華洋義賑會の運動は、僅か二千餘個の農民經濟に及ぶ位ひのもので、これはつまり仁愛的計劃であつて、まだ眞の大衆運動ではない。湖南及び湖北の農民革命運動が勃發した時に、農民自身は適當な組織意義をもつて、消費組合を組織したが、かゝる組合はまだ機械の購入等考へることはできなかつた。なぜならば彼等は自衛のために武器を購入しなければならなかつたからである。中國の農村では早くから各種の舊形式の消費組合が知られてゐた。即ち貸借のための團體があつて、金錢が缺乏した時は一處に食事すべく仲のよい友達を彼等の「寄り合ひ」に招待する。又五穀成熟の時には、防守隊を組織して竊盜を防ぎ、早魃の時には、隊を組んで聖地に赴き、祈禱（雨乞ひの類）をなす等々。然してかゝる舊式の協同は、主として農村の上層分子のためのものであつて、農民の經濟的貧窮や生産技術の改良とは、いさゝかの關係もないのである。

機械を應用して灌漑した地方では、その結果は非常に見るべきものがあり、收穫にも收穫は時に二倍の増收に至つた。然して中國に於いては、機械の應用は灌漑の點ばかりでなく、實に收穫にも異常な成績をあげたが、未だ一般的には殆んど知られてゐない。然し將來に於ける革命勝利の新中國に豫言し得る一つの例がある。

一九二四年、漳州（？）の近郷で、電力を用ひて灌漑した稻田、及び一九二五年機械や電力を用ひて灌漑した田地は、すでに三八、一三三四畝あつた。その結果は次ぎの様であつた。

両手の労働を用ひて、一畝の稻田を灌漑するには、二元を費さねばならず、家畜を使用し道具を動かして灌漑するには、その費用は、家畜の飼料が非常に高かつたために、更らに高價であつた。モーターを用ひて灌漑すれば、一畝に就き一元九角を要した。もし電力を用ひて灌漑すれば、一畝に就き僅か一元半に過ぎなくて、人工に比較して、一畝に就き半元の減少である。

だが收穫は、機械及び電力を用ひて灌漑すれば、人工による灌漑に比して、二三倍の増收である。未だ灌漑せず或は灌漑がうまくいつてゐない稻田の一畝の收穫は、十元であるが、然し機械を用ひて灌漑した稻田は、一畝に就き三十元の收穫がある。而して土地の價格は、一畝につき七十元乃至一百元から、一百二十元乃至一百三十元に騰貴した。(註九)

もし技術の發展を妨害する社會的條件を覆へし、水量の供給を改良したならば、三倍の増收ができるであらうし、中國の舊い土地を如何に不思議な程變ずることであらう。然して機械の應用の點から云へば、中國の農業は現在まだ極貧の時代である。だが電氣化と社會主義政權の實現は、その他の如何なる國家より急速であらう。農業技術と化學の急速なる進展過程——我々の時代の成績の最大なるものゝ一つである——は、極東に於ける農村經濟上に於いて、その實現に何等の停滯をももたらさないのだらうか？ と問ふ人がある。この問題に對する我々の回答は、今の所依然として否だ！ 日本・印度・ジャバ・朝鮮・及び印度支那に於ける、灌漑技術は、緩慢に極めて緩慢に改良された。日本の農民は、すでに礦物質を含有する品物や豆粕を用ひて、肥料とした。種子の改良上に於いても、日

本・ジャバ・印度に於ては、すべて見るべき成績をあげてゐるし、害虫驅除の方面に於ても、非常な成績をあげてゐる。印度に於ける、鑽孔器を用ひて開掘したる井戸も、その成績の見るべきものがある。然し最大の成績は機械を用ひて灌漑及び排水する制度の建設に及ぶものはない。エヂプト・中國・日本・トルキスタン等々の歴史は、今日の人々を實に驚歎せしむるような、偉大なる建築物について語つてゐる。かゝる建築物は奴隸的勞役に服した八百萬の農民の兩手の勞働の結晶である。土地の偉大なる建設も農村經濟に於ける一切の固定資本の上に、又數千數萬の農民の勞働を要した。現在、機械は岩石を擊破し、山洞を穿ち、水道を開サクし、雜草の茂れる池沼を數年たゞずして、肥沃の耕田と變じ得るのである。新式の技術は、空前未曾有の廣大なる面積にわたる耕地の可能性を促成した。然し中國では、かゝる種々な方面は明白に退化し、且急速に退歩しつゝある。事實中國には幾多の農事試験場があり、數個の農業大學もある。然し、これはほんの大海の一石に過ぎなくて、その影響範圍たるや實に微々たるものである。もしそれ等の機關の報告を一方でも見れば、彼等の活動が縮小し、退歩し、影響範圍も減少したと書いてある。たゞ或る部門の耕作上、例へば煙草や豆類等の如きものは、その技術が若干進歩してゐる。だが舊式な、典型的な農業生産は漸次衰退しつゝある。茶の培植はすでに未曾有の衰退に陥り、桑植の最もいゝ時でさへも停滯の中にあり、棉花の耕作に至つては、多雨の年でも急速に衰退に向つてゐる。主要な五穀の耕作も同様に衰退し、糧食は一年一年不足してゐる。凡そこれ等種々の衰退は、たゞ人工の手工勞働上に打ち建てられた農業技術の衰退した結

果である。而して人工の手工労働こそは、中國農村經濟の技術の基礎であるのだ。

あらゆる社會制度及び國家の、現有の、特別形態の、最も奧妙にして神祕なる基礎は、すべて財産所有者の直接生産者の生産條件に對する直接關係の中に藏されてゐる。これ等の關係の如何なる現有の形態も、常に生産方法のその時の發展程度と、自然に、相互に適應し合つており、社會の労働生産力とも相互に適應し合つてゐる。従つて、我々は先づ労働方法の問題を分析すべきであり、労働方法と土地關係は、自然に、適應し合ふものである。この問題を分析して、我々は一つの結論に到達する。即ち中國を含む極東に於ける主なる國家は、その労働方法に幾多の主要な類似點があるが、歐米の農業労働方法とは異なることである。我々の結論は、極東に於ける農業労働方法の主要な特徴が、灌漑の性質、施肥の特別なる重要さにあり、マ家畜労働の役割が極少であり、牧畜及び製乳が行はれてゐないことにある。

かゝる經濟的基礎の類似は、同様に土地關係の或る種の類似を導き出す。自然的條件、種族と民族の特殊性、具體的環境の差異、外來の影響と歴史の發展は、土地關係の偉大なる差異を導き出した。吾々はこの各國の土地關係に對して具體的な研究を加へねばならぬ。

我々は次章に於いて、中國の土地關係に對するアジア的生產方法の性質を分析しよう。(譯者註——訂正版には、「我々の結論……」のところから、以下の如く改められてゐる。即ち——

我々は今迄中國の農村經濟を、全體として見て來たが、社會の階級的分化の問題、中國の農村に於

ける土地關係の問題には觸れないで見て來た。我々は更らに次ぎの事を見よう。如何に富農が貧農よりも土地をよりよく灌漑し、且耕作するか、富農層の農業に於いては如何に労働家畜が貧農の農業に於けるよりも多くの役割を演ずるか、大經營に於いては如何に労働者の生産力がより合理的に用られ而も、賃銀労働者はより搾取せられ、同時に死んだ用具も、より合理的に、より經濟的に利用されるのを見よう。然し、我々は先ず第一に、中國の農村經濟の全體としての特徴をつかみ出すことが必要だと考へる。我々は、農業の灌漑的性質、施肥の特別な意義、森林、牧場の缺除、牧畜の缺除、労働用家畜の役割の僅少、人力を非常に用ふることが、中國本部の農業經濟の根本的特徴であると云ふ結論に達した。その際人間の手の労働の適用と比較して、全支那の農業資本の構成が甚だしく下位なことが條件づけられてゐる。

農業經濟のこれ等の問題を、我々が點檢し終つたならば、我々は土地關係の點檢に移り得る。然し、前もつて我々は中國の殖民地地方を問題としよう。これ等の地方に於ては、農業生産の外的條件の意味に於ても、社會的關係の意味に於ても、若干の特徴が見られるから。

(註一) マルクス著「資本論」第三卷第二篇、一五九—一六〇頁。

(註二) Copeland ; Rice page 一四九

(註三) 同右 二五一

(註四) Arnold, China, a commercial and Industrial Hand book page 一四六

- (註五) 同書 page 三五六
- (註六) 同書 page 五一八
- (註七) 同書 page 五八四
- (註八) Foreign Trade of China 1926. part I. page 六二五
Foreign Trade of China 1926. part II page. 一九六
- (註九) Chinese Economic Bulletin Vol. X.N. 318 page 一五八

第七章 拓殖區域

拓殖區域は中國の第三大區域である滿洲及び內蒙古（綏遠、熱河及びチヤハール直轄區域とバルガ直轄區域等）がこれに屬するものであつて、それは生産過程の關係或は社會的關係に於て、幾多の顯著な特殊點を有してゐる。この區域は、確言すれば、この數個の區劃は國家の特別地區の地方である。この十年以來、その拓殖の過程は飛躍的發展を遂げ、そのテンポ、その廣大さ、その形式は、實に一部のアメリカ拓殖史と伯仲し、これを凌駕するものである。中國の他のすべての省に比較して滿洲の現状の複雑さは、帝國主義の深入によつて特別に早くから引き起こされた。我々は拓殖問題の考察に對して、以下の各種の情況に従つて、研究を加へよう。即ち我々は、この拓殖區域が中國のその他の區域に對して、農業生産過程の意義上、その異同點がどこにあるかを説明すべきであり、又拓殖過程の完成の條件はどうか？ 及びこの種の未拓殖地の存在が國內農業問題を決定する影響の程度がどんなものであるか？ 等に對して説明すべきである。

滿洲人が中國本土に侵入して以來、彼等は漢人を強迫して貢納させた。當時はすべて北京政府によつてこれを收得しており、直隸、山東兩省、中國の土地の大部分は、すべてその所屬邊疆官吏に分配し、等級の高下に從つて、十八畝乃至一千八百畝の土地を與へた。中國に於て、滿洲人は決して自ら

耕作しようとするのではなく、中國の農民を驅使して自身の農奴とすることであつた。彼等は、甚しくは三萬人の農奴さへ有してゐるものがあつて、中國農民を非常に壓迫した。それ等の農奴は死刑の威嚇さへ恐れずして、相ついで逃亡を斷行して居る。中國年鑑の所載する所に據れば（註一）滿洲旗人（「旗」は、滿蒙人が、その氏族血統に従つて組織したる軍隊の單位である）の占有したる土地は、約一五・三三六・〇〇〇畝に達し、この種の土地は一切その賣却を嚴禁された。

我々が知る如く、『被征服民族の支配と氏族共同體の組織とは、兩者相容るゝ能はざるものであり』、『貨幣による支配、專制政體、及び他民族に對する奴隸的服従は、すべて氏族共同體の最後の破産への到達を促成するものである。』（註二）滿洲人の寄生的生活は滿洲人の支配の解體の宣告を促進させた。一七四六年清朝が漢人を強制的に従へ買收しその賣却を禁止した滿洲旗人の土地は、早くも重ねて新しく分配され始めてゐた。中國の商人、銀行業及び官吏は、質、貸借、高利貸付を経て、再び新しくこれ等の土地の主人となり、中國の農民は最大の努力を拂つて、漸次身受けして滿洲族の農奴から開放された。一八五〇年に至つて、終にこれ等の土地の自由賣買を許すことがに決定された。

かくの如く、中國人はその征服者の手から、自身の土地を奪回したのであつた。

（註一） 韓藍洪著「支那に於ける國內稅」

（註二） エンゲルスの「家族、私有財産及び國家の起源」を見よ。

即ちこの時、清朝は漢人の滿洲移住を禁止し始め、滿洲人の支配をその勢力の根據地にとどめ、且その邊境の官吏及び將軍の後繼のために、教養をなす所となさんと欲した。朝廷のかゝる詔令は、中國農民の土地恐慌に對する大きな恐威となつたが、中國人の自發的移民は、終に陸續として絶ゆる所がなかつた。十九世紀の初めになつて禁令が弛むに至つてからは、移住者は益々勇躍たるものがあつた。現在滿洲の居住民中九〇パーセントは全部中國人であつて、滿洲族の原來の住民は松花江の上流へ追ひやられ、且蒙古人を興安嶺中に驅逐した。今日の滿洲は非滿洲族の滿洲であつて、即ち漢族の滿洲である。『滿洲人は武力を以て中國を征服したが、中國人が滿洲族を征服したのは、和平的方法であつた』。(註) 東支鐵道の開通は事實拓殖のスクルユーとなつた。拓殖過程の猛進は、露支戰爭後であつて、その主要な原因は、殊に中國北部自身が感じた所の國民經濟の破壊の日一日の擴大と相關聯するものである。一九〇六年から一九一六年に至る東三省の人口の増加は一三、八二五、八八二人から一九、六三九、六七一人に到達した。而かも一九二五年にはさらに二〇、五〇〇、〇〇〇人に増加するに至つた。都市の發生は實に目覺ましく、その發達は驚く可き程であつた。吉林と黑龍江の兩省の開拓は、ほんの二〇世紀の初めのことに過ぎない。滿洲年鑑の記するところに據れば、一七世紀の末、全滿洲の耕地は二、一一七、〇〇〇畝であつたが、一九二四年には、六五、五〇〇、〇〇〇畝が増大してゐる。

直魯戰爭の當時、水害、旱魃等の天災又は人的禍害が相ついで勃發したので、移民の趨勢は益々猛烈となつた。その初期時代には、移民中の大部分は、その故里に歸り、ただ一部分の者が播種以後のため滿洲に留まつて永久の住民となつたものである。現在はそれと非常に異なり、移民中の最大部分は、皆家族打ちつれて滿洲に永住してゐる。滿洲移住者は、殆んど河南省、山西省から來たものであり、甚しくは江西省から遙るばる來たものもある。一九二一年から一九二四年に至る間の、毎年の入滿者は、平均四十萬人であつたが、一九二五年には終に五十萬人に増加し、一九二六年には五十萬人から六十萬人に達した。一九二七年には、耕作に従事し、又永住者となつた者は合計一百万人となつてゐる。(註一)これより以後、移民中故郷に歸る者の數は不斷に減少して、一九二四年には六五パーセントであり、一九二五年には四九パーセント、一九二六年には全數の僅か五二パーセントであつた。且つ近來の移住者の大半は家族を伴つて來る時に途中多くの死亡者が發生するが、移住者は不斷に來りすべて土地を有し、仕事をもち、パンを得る目的地へ到達したのである。即ち滿洲に於ける日本の炭坑及び工場に就いて云つても、亦無數の者を吸収し得たのである。一般的意見によれば、滿洲に於ける人口の増加は、一九〇六年から一九一六年までは、毎年平均約四―五パーセントであつたが、一九一六年から一九二六年までは、毎年平均約五―六パーセントであつて、人口發達のテンポは、米國に比しても亦その三四倍に達するものであつた。尙ほこの際説明を要すべきはその中には朝鮮から北滿に移住した者が數百萬人あり、又日本帝國主義と朝鮮の高利貸的及び封建的收奪によ

つて收奪された若干の土地があつたことである。(註二)人口の密度に至つては、滿洲の全部はすでに合衆國を超過し、奉天一省はすでにアイルランドの人口密度にまで達しており、吉林一省はソヴェート同盟の西歐方面の人口と伯仲して居る。凡そこれ等はすべて三十年内の事情である。かゝる移民の氣運は始め奉天附近に濃厚であつたが、漸次吉林省が捲入され、最近ではそれが黒龍江省に波及し、且奉天省ではすでに相對的に他の土地への移殖の必要を充分に痛感して、それ自身すでに他省へ移殖を開始したのであつた。一九二〇年から一九二七年に至る滿洲の耕作地は、一八パーセント發展した。

(註一) 統計は「Chinese Economic Journal」一九二七年出版、第一卷、第七號より引用したものである。

(註二) 假りに吉林省に就いて云つても、朝鮮からの移民は一百萬人あるが、朝鮮の移民は、極く最近十五年前に開始されたに過ぎない。

次にかゝる移民の氣運が商工業の發展に對して如何に影響したか？ と云ふ問題についてを述べよう。我々が知る如く、露支戦争の終結せざる以前、滿洲に於ては、ロシア・朝鮮及び中國各地の邊境との貿易以外に商業用として開港されてゐたものはたゞ牛莊の一港であつた。牛莊が開港されて商港となつた當年、滿洲の全對外貿易は輸出入とも合計五、三七一、〇〇〇擔(ピクル)であつた。一九〇五年には五五、一七三、〇〇〇擔であり、露支戦争の後に、少なからざる通商港が相ついで開かれ、滿洲の對外貿易は、終に一九〇八年の九六、八一二、〇〇〇擔から、一九一八年には二六七、二

〇三、〇〇〇擔に増加し、一九二六年には更らに四四七、三五六、九九六擔に増加したのであつた。

(註) この單純な數字では、尙ほ十分な説明となすに足りない。もし全中國の對外貿易の數額から見て、滿洲一地に就いて云へば、一八七二年は〇・五パーセント、一八八八年——四・六パーセント、一八九八年——八・七パーセント、一九〇八年——一四・五パーセント、一九一八年——一一・五パーセント、一九二六年——二二・三パーセントである。こゝで我々が注意すべきことはこれによつて、中國經濟の總系統中に於ける滿洲の發展の比重を明かに看取し得ることである。滿洲に於ける大連の意義は、天津の内蒙古の移民に對する意義と殆んど同じものである。即ち天津には京綏鐵道があつて、天津と該區域とを相互に聯絡せしめてゐる。

(註) 一九二六年の全中國の對外貿易總數は、輸出入合計二十億八百萬ピルク(擔)である。

滿洲の人口は、尙ほ中國の人口の十五分の一、或は二十分の一にも及ばないが、その對外貿易額は、全中國に比較して、大凡五分の一を越すのである。滿洲の發展は二十餘年間のことに過ぎない。(註)

(註) ソヴェート同盟に於ける中國問題研究家の若干のものは中國の對外貿易の増大を評價するに際して、この「些事」を考慮に入れないので全中國の生産力の發展に對して、全つたく大げさな結論に達してゐる。

内蒙古に於ける移民開拓の過程に至つては、その開始が甚だ遅く、その發展も甚だ緩慢である。勿論内蒙古の移民開拓の容相は鐵道の敷設につれて加速度的に進展したし、殊に最近になつて「滿洲」

的な性質を帯びて來た。我々が知る如く、一九二六年張作霖が蒙古の王公を従へ、八百萬餘畝の土地を購入したが、その目的は新來の移民開拓者に轉賣するか或は小作させるかにあつた。該區域に於ける農民經濟の數量の發展は年を以て計算するのではなく、月を以て計算される。

中國に於ける拓殖區域の土地の顯著なる特徴、及びその土地關係の形成過程はどんな容相をもつてゐるか？

滿洲の氣候・壤土は、一般的に云へば、ソヴェート同盟の極東部分の情勢と殆んど相類似したものであるが、この點に關しては略して述べない。中國農民の技術の方面に就いて、我々の見る所は「中國の移民は土地の開拓が目的であつて、すべて農業に従事し、中國數千年來の經驗をもつており、滿洲西部及びロシアの勞働とは判然と異なり、その特徴は、勞働の低廉なこととその固有の陳腐な原始性にある。家畜の力を利用すること少く、田畑耕作の・收穫及び播種等の大部分はすべて手工勞働であつて、蒸汽機關は應用されてゐない。」

肥料は地方の農業經濟に於いて、極めて大きな役割をもつてゐる。我々が考察した結果によれば、肥料の應用の程度如何と地方の人口とは、事實正比例をなすものたることが、均しく證明された。

耕作に於ける農業技術の主要な特徴は、即ち深層耕作にある。

深層耕作の主要な意義は、耕地を休養せしめるための休閑地を用ひない點である。其の理由は地面の下層と上層との交代によつて實際上年々の土地の休養が可能になるからである。この耕作によれば

吾國の三順耕作法の如く土地の三分の一だけが利用されるのではなく、耕地の全表面は猫の額程の地面を失はないで全部利用される。

すでにた舊くから非常によく耕作され土地であるにかゝわらず、中國の犂はその土地を深く掘り返へすことができず、表面に限られてゐて、ほとんど我國の鋤と同様である。これがために土地が少しも肥沃にならずに一層瘠せるばかりであつた。この點に中國の犂の役に立たない一面が見出される。

又これが中國人の未墾地開拓に、完全にエジプト式の勞働を採用する所以でもある。

「……かゝる鋤の如き道具（通常犂と云われる）を創造した事實が、中國の農村經濟生活中の歴史的事件であつた。」

……現在新しく製造されたものも亦一種の犂であるが、これはたゞ在來のものよりやゝ形が大きく、少しばかりの部分品を附屬せしめた「大犂」と云ふものであつた。この種の犂、使用するに六匹以上の馬力を必要とする。この犂は土地を耕す際、土を小さく碎き、土をスキ返すことが出来る。」（註）

（註） コンスタンチノプールの「東三省雜誌」八——十期に於ける分析に基く。一九二五年出版

これによつて、我々は、滿洲に於ける中國の農民が、比較的大きい農場で使用する所のものは、中國本部の細小の經營に用ふる所とほぼ同様の農具であることを看取した。我々は又舊式の中國の犂が未耕地開拓に應用されるのは、不適當であることを看た。

肥料と各該區域の人口とは正比例をなすが、日本の田地に用ふる肥料——豆粕は、亦滿洲から輸出

したものである。耕作家畜の數量中蒙古區域の附近から輸出した數量は少くとも馬一萬餘匹はある。これ等の馬はただ乘馬用として私用されて、車馬用としては適しないが、大體應用し得るものである。我々はさらに、滿洲に於てはすべて手工労働が播種に應用されるのが非常に適當であることを發見する。だが、それが資本（耕作家畜・肥料）に應用される場合直ちに大きな阻碍となつて現われる。

ヤシノフは、かつてソヴェート同盟の極東方面及び北滿方面に於ける農民經濟の農業「資本」の構成を比較して、次ぎの如き表を得た。

資 本 の 構 成					
	建 築	家 畜	器 具	家 産	
ソヴェート同盟 極東方面	二五・四%	二七・七%	一三・七%	三三・二%	
北 滿 方 面	三五・〇%	二一・七%	一四・〇%	二九・三%	

かゝる「粗略」なる比較は、甚だ不充分であり、その不充分さは、この比較表中に農民經濟の社會的の分化を分析してゐないことである。これに次いで、「ロシア移民が取得した土地は、價格が極めて低廉なるものもあつたが、中國の農民は高利貸の價格で土地を買つたものである」事實を粗略にし、この事實の重要な所在を計算しなかつたことである。もし地價を計算して加ふれば右の表を得

る。

經濟別	資本の構成成分				
	土地價格	建築物	家畜及び家禽	不動產 (用具)	家產
ソヴェート同盟極東方面二〇一個のロシア人經營	—	二五・四%	二七・七%	一三・七%	三三・二%
北滿方面七一偶の中國人經營	六九・六%	一一・六%	六・四%	三・八%	八・六%

上記の表にて見る如く、中國の滿洲移民は、自身の財産の百分の一七を以て、土地を購入したのであるが、同時にロシア人は無償にて土地を取得することができたのである。此の表は又ロシア經營の耕地一畝（ロシア畝）に對する家畜の價値は、四七・六一ルーブルであるが、中國人は二五・五〇ルーブルたることを説明するものである。土地一畝に對する不動產たる用具は、ロシア經營にては二三・五七ルーブルであり、中國經濟では一六・五〇ルーブルである。家畜はロシアでは五七・〇六ルーブルであるが、中國の經營では三四・五〇ルーブルである。上述せる統計は、ロシア革命後の破壊、危機が未だ消滅してゐない時のものであるが、當時中國の農民經濟は一種の隆盛なる情勢の下にあつた。

「土地の私有が自由である時には、耕作者は土地購買の資本としての費用が必要となり、これが又

小農を窮困にする原因の一つとなる。」

「土地價格は、従つて非生産者の生産に對する消耗であり、或は個々の生産者の物品生産に對する消耗の主要な部分である。」

「それは農業上に機能する固定資本の一部でもなければ、流通資本の一部でもない。それは寧ろ、地代を受くべき権利を、土地購買者に確保せしめるだけであつて、この地代と生産とは絶対に關係するところがない。」(註)

(註) マルクス「資本論」第三卷第二篇

滿洲に於ける中國農民は、自身の財産の六割乃至七割を以て、土地購買の用にあてざるを得なかつた。これが滿洲の農業を停滞せしめた原因であつて、その他の滿洲經濟を阻礙するもの、例へば高利貸、租税、貨幣の暴落、日本の對外貿易の壟斷、商人の奸策、高率關稅及び人民の無法權等は、さらに計り知れない。農民中殆んどすべては蓄積された資本を持つてゐない。一般の滿洲移民も亦同様である。且これ等の滿洲移民中、多半或は殆んどすべてが、山東省或は直隸省の破産した農奴であり、或は破産した農民がその土地を賣却して滿洲に移住したものである。

滿洲の土地は、これを山東省或は直隸省に比較すれば、遙かに低廉である。従つて農民は、滿洲に於ては山東省に比較して更らに多くの土地を購入することができたのである。だが彼等は充分にこれを利用して耕作することは出来ない。なぜならば彼等の生産用具が不完全であり、甚しくは缺乏して

あるからである。且人口の發達のため、移民の新たな氣運が濃厚となり、滿洲を世界商品流通經濟の舞臺に上し、又道路の開拓及び鐵道の敷設につれて、漸次土地價格が増大した。十一年來の北滿の土地價格は、平均六四パーセント増加し、南滿洲は一〇〇——一五〇パーセント増加した。(ヤシノフ氏の「中國の農民經濟」四五四頁)

然かも、これ等の地盤は、誰がそれを分配するか？ 開墾業が如何に組織されてゐるか？ 今ヤシノフのこの問題に對する分析を見よう。

「その始め國家は低廉な價格を以つてその荒地を賣却したが、この地は以前住民が充満してゐた。これ等の土地は大部分、官吏(高級の)、商人、或は他の一種人の購買するところとなつた——この種の人々は農業を經營するものでなく、只購入した後高價に(常に非常に高價に)轉賣或は小作地として他に貸與し、小作料を收奪し、利益を取得しただけであつた。」

「土地を直接購入した移民は非常に少數であつた。」

上述せる所は、事實正しい。謂ゆる「國家」とは、即ち二三の大軍閥である。これ等の輩は、土地を賣却して莫大な金額を取得したのであつて、この購買金は、一人の懐から又他の者の手に轉入したのである。これ等の輩は、又常に墾業局の名義をもつて、未耕地を取得した。滿洲の督軍達は、すべて數十萬畝の土地をもつてゐる。この土地の大部分は、高利貸者、銀行業及び官僚が購入して、又これを商人、富農或は移住して來た住民に轉賣し、時にはこれを小作させた。將軍達は常に鐵道敷設の

通路に土地を購入して、價格の引きあげを企てた。同時に投機業者と日本の資本家は、又自己の土地の附近に鐵道を建設したので、農業者或は投機業者は、各種の收入例へば小作料或は土地價格等が増加した。彼等はその土地の便利さを口實として高價な地代を取得することができた。この種の土地は常に投機業者の手を五度も六度も多い時には十度も経たものであつて、直接生産者が未だ入手せざる以前には、丁度それが小作農か或は小農の土地私有者でもあるかの如き感を與へた。

移民の氣運が急テンポとなつてから、例へばこのすさまじい氣運が奉天省を捲き込み、アムールにまで及んだ時、督軍達、官吏、商人等各種の土地投機業者は、到る處で移民の土地獲得の自由を制限した。

「私有者はその土地私有權を擴大して、小作農は却つて幾多の私有者となり、且建築物及び用具の資本を蓄積して來た。然かしかゝる過程は、決して永續するものではなかつた。人口の自然的増加及び移民の潮流の不斷の奔騰は、急速に小作料及び地價を暴騰させた。」

今その過程を見よう。

「地價或は一部の地代の騰貴の理由は——その主要なものは、移民方面の要求によつて、増大するものであり、地價或は小作料の増大は、やゝもすれば經營からの收入を超過したからである。その平均範圍は、その程度によつて、決定される。經營によつて得るところの收入は、人口の發達及び市場關係の隆盛につれて、やはり増大するものであるとは云へ、それは地價の急速な騰貴に遠く及ばない

のである。これに反して、不十分な資本の形態の下では、非農業經營（商業・工業）の收入及びその總量の増大は、すでに顯著な事實である。その結果は、専ら利潤を取得するための資本が、農業より衰退を來し始めたのである。」（註）

（註） ジェムソン——著 Land Tenure etc 八十二頁。

上述の説明は、滿洲の農村に於ける社會的及び經濟的過程を充分に分析したものである。

我々がもし再び、一八八〇年ロスが考察した結果と、現在の狀況を比較してみるならば、農村から資本が如何に急速に、又如何なる形態で衰退して行つたかを見ることが出来る。

資本が、農村から都市及び工業方面に、殊に高利貸の手への流出は、一八八〇年すでに明確であつた。「製糖工場主或は錢莊の主人が他人から受けた尊敬は、地主程ではなかつた。なぜならば上述せるこの種類の事業が多額の資本を要するものであつて、土地に投資する額が常に小額であつたから。」要するに、錢莊の主人は當時すでに「非常に尊敬されてゐた」のであつて、最近の情勢は、以下の様に云ふことが出来る。

「我々は到る處に錢莊を見うけるが、それはすでに農民、小商人及び一般下層社會の唯一の財政機關となつた。錢莊の大部分は、常に銀行と關係を結んでゐて、それ自身は常に高等官吏の職務を兼任してゐる。奉天・牛莊・及び安東等に在る錢莊の大部分は、東三省銀行（何々將軍の銀行に屬す）に附屬してゐる。吉林銀行（何々督辦に屬す）も亦、その下には錢莊が附屬してゐる。牛莊の錢莊は

殆んど完全に大官僚が操つてゐる。此の種の錢莊の利息は、毎月二——三パーセント（すべて商業貸借である）であつて、小資本の錢莊の利息に至つては、更らにそれ以上に高く、毎月四パーセントから八パーセントに至り、貸借期間は長く四ヶ月に至るものである。（註）

（註） 滿洲經濟史、二六七頁を見よ。

以上、資本が農村からどう流出して行つたか、又それが如何なる方向へ流れて行つたかを説明した。だが農村内に留まつたものは、又どうであつたか？

ヤシノフは云ふ、「農村内には尙ほ我國（ロシア）の富農と相似たる成分が存在してゐるが、勿論數的には多くない。」

ヤシノフは、滿洲の農村内には富農以外になほ二種の成分があることを證明してゐる。第一種は「自己の資本を、農村經濟に於ける狹義の手工業の範圍に投資する以外に、なほ進んで農業原料の生産、或は商業的な土地私有に應用するのである。」（註一）

第二種は、中國農村の資本主義的分子で、比較的相當の基礎をもつものであり、且極めて權勢のある大官僚と軍閥、及びその親族たる地主である（この種の地主は、常に極めて大きいものである。）

然しヤシノフは又我々に安堵すべく云ふ、上述の諸分子は、「數量上決して多數ではなく、而かも大事なことは、これ等の分子が向上發展する如何なる條件（或は前提）もあり得ないことである。」中國の高利貸資本及び貪慾な官僚や強盜共のこの勇敢な辯護者（註二）は、土地を私有する地主・投

資者・將軍・官僚が「數量上」非常に多數であつてもいゝとするものである、否、常に少數であると相對的に發展の前提があると云ふのだ！

遠く一八八〇年に、ロスはずでに、最大多數の經濟は、地主一身によつてこれを占有することができると、指適してゐる。

(註一) これはヤシノフ氏の著書の五二五頁に説明せる所であつて、滿洲を説明することによつて、土地問題に對する分析を證期するに足るものであると考へたものである。彼は正確に云へば國粹派であつて非マルクス主義者である。尙ほ正確にはベルンスタイン、マスノフの類であつて、マルクス、レーニン、カウツキイの類ではない。この點に關しては、その論争中から、彼等がただマルクスを批判したものを讀んだ丈で、マルクス自身に就いては、彼が何等研究を加へてゐないこと、その結果、彼が高利貸の辯護者となつた事實を知ることが出来る。

(註二) ゼームソン著 "Land Tax etc." 八十頁。

現在ヤシノフ氏自身は黑龍江及び吉林兩省の統計に對してどう思つてゐるか？ (彼の書中一一三頁の圖表を參考せよ)

この點に關して、ヤシノフ氏は又補足して云ふ。

「小作農經營の數量は、我々が表面上から見て、絶對的ではないが、やはり相對的に減少した、最近數年來、土匪(紅鬍子)が跋扈した結果、その數は多大に増加して、一二三の縣では、それと小土地

所有者との、合計總數は農村の半數以上に達してゐる……。」

	自作農	小作兼自作農	小作農	合計
黑龍江省三十縣(一九一八)	一八五・〇	五八・二	八五・五	三二八・七
吉林省二十縣(一九二〇)	一六〇・三	五五・三	八六・九	三〇二・五
總數	三四五・三	一一三・五	一七二・四	六三一・二
その百分比	五五	一八	五七	一〇〇

吉林、黑龍兩省の農民の分化は、ヤシノフの分析する所によれば次ぎの如し。

經濟數量	總數中の百分比	私有地の範圍	私有地の平均標準	農場の總數量	總數中の百分比
五、〇〇〇	〇・七	一五〇以上	二〇〇	一・〇	八・七
二〇、〇〇〇	二・九	三〇—一〇〇	一〇〇	二・〇	一七・三
七五、〇〇〇	一〇・七	三〇—七五	四〇	三・〇	二六・〇
三〇〇、〇〇〇	四二・八	一〇—三〇	一五	四・五	三七・〇
二五〇、〇〇〇	三五・七	一—一〇	四	一・五	八・七
五〇、〇〇〇	七・二	一より以上	〇・五	〇・〇三	〇・三
七〇〇、〇〇〇	一〇〇・〇	—	一六・五	一一・五三	一〇〇・〇

これが、ヤシノフの「社會分化」であつた。四二・九パーセントの農民はただ九パーセントの耕作地をもつてゐるだけであるが、三・六パーセントの農民は、かへつて二六パーセントの土地を抱擁してゐるのであつて、吉林、黒龍江の兩省では、一方拓殖の過程と農民の分化は併行して進んだが、他方自作農が小作農へ轉化した過程は、「ただこの兩省は、遠く奉天省の甚だしいのに及ばないのである。即ち該省の小作農は約七〇——八〇パーセントを占めてゐる。謂ゆる「自作農」と云ふ者は、農村に於ける分化を明瞭にしないがために歸因することを説明するものである。一人が成功して、萬人を貧困にたたき落した。拓殖の過程で、稍や安定せる農民が、富農や高利貸に轉化することは、免れ得ない事實である。これは「資本主義生産の胚胎時期」に於いて、同様に「中世紀に於ける都市生活の胚胎時期」に於いて、逃亡した農民の中で誰が主となり、誰が従となつたかは、通常それが支配者から逃亡した時期の遲速によつて決定されるものである。(註)

(註) マルクス「資本論」第一卷七四二頁を見よ。

同様に、移民中誰が富農となり、誰が農業プロレタリアート及び小作農になつたかの問題は、亦通常それが直隸・山東省から滿洲に逃亡した遲速によつて、斷定されるものである。

一八八〇年の頃、奉天省の人口の密度と、一エーカーの土地の價格との比較は、すでに二五〇元に達し、吉林省に至つては、高價に土地を購入したものである。現在では、奉天省の一エーカーの地價は三〇〇——四〇〇元に達し、黒龍江及び吉林の兩省では、四五——八八元である。ロスの計算によ

れば、奉天省の小作料は、收穫の三分の一、五分の一、或は七分の三であつた。現在ヤシノフの云ふ所によれば、小作料はすでに收穫の五〇——六〇パーセントに達してゐる。ロスの意見によれば一八八〇年に於ける奉天省の一エーカーの小作料は、貨幣に見積つて、七・五〇元であるが、現在ヤシノフの云ふ所は、吉林・黒龍江兩省はすでに八・四——九・五元に増加してゐる。ヤシノフはなほ、小作料が一九一一年から一九二〇年までに、二〇——二五パーセントに増大したことを證明してゐる。拓殖の過程の猛烈な進展と、これに従つて起さる土地に對する人民の切實な要求は、小作料と地價を騰貴させる。

土地が肥沃であればある程、經濟の單位は小であるが、勿論これは一八八〇年既に明白であつた。だがこの時南滿洲に於ける最小單位の經濟は、亦三エーカーの廣さであつたが、現在では、一單位各戸の所有地は以下の如くである。(單位は一エーカー)

省 分	聽 東 廳 の 統 計	滿 鐵 の 統 計
奉 天	〇・七五(畝)	〇・九三八(畝)
吉 林	一・四二(畝)	一・三四七(畝)
黒 龍 江	二・四六(畝)	一・五〇三(畝)

範圍の縮少は、到る處すべて非常に甚しいものである。滿洲に於ける中國農民のこゝに至つた所以は、みな地主の壓迫、土地の投機、未耕地が高利貸に縛りつけられてゐること、及び帝國主義の小麥

粉及び豆類市場の壟斷、それに商業的奸策等がもたらした所である。

内蒙古一帯（熱河、チャハール、綏遠）に於ける拓殖の過程は、さらに前途暗澹たる情態である。各該區域に於ては、始め拓殖は固より緩慢であつたが、その發展は今に至るまでも尙ほ極めて緩慢である。京綏鐵道の敷設は、勿論開墾の有力なスクルーであつた。これ等の地方では、二つの經濟制度及び社會制度の對立を發生した。

該各地の主要な人民は蒙古族であつて、二重の壓迫を受けてゐる。即ち一つは佛教の最高僧侶であり、一つは蒙古王公である。この二重の壓迫は、すべて宗族制度の關係が隱蔽するところのものである。かゝる残酷な壓迫は、中國の高利貸資本によつて指導されるものであるが、それ自身も内蒙古の收奪中に於いて、又外國商業資本の收奪を受けてゐる。王公を維持する傳統的租稅は、決して高いものではないし、王公の軍隊（牧場の管理やその他の宗族の掠奪を防止するために設けられてゐる）を維持するための租稅も、蒙古族牧民の負擔としてそう迄重いものでもない。だが中國の高利貸資本が蒙古土人を收奪するには、蒙古王公の助を藉りねばならぬのである。此の種の不生産者の集團は、北京・カルカ及びその他の都市に於いて、その收入を濫費して、中國の商人、高利貸、官吏と貸借關係を結んでゐる。而して利息は、各該王公の「哈淞」（蒙古語で縣の意である）によつて、責任をもつて支拂つてゐる。毎年元金を返却する必要はないが、利息を支拂わねばならず、その利息たるや毎年合計四〇——五〇パーセントに達するため、王公の大半は負債に陥り、それが宗族の收入の大部

分を濫費してゐるのであつて、その家族は即ち王公の重大な負債の下に屏息呻吟してゐるのである。貨幣の用途が日一日と擴大して、游牧民も亦交換過程の中には入つた。蒙古人は、大部分の毛皮・乾酪・家畜・絨毛・及びラクダ肉を賣却して、不斷に茶・大連被（テントや毛氈の用に供す）・煙草・皮革・及び生絲を購入する。市場關係の發展、大量的需要は、共に漸次發展して、收奪の範圍はすでに王公及びその貴族の「べんぐ」たる腹で消長せられる購買能力で限定し得る所でなく、賣買即ち大量商品は、收奪の範圍を決定するに足るものであつた。家族制度は殘酷な收奪の隱蔽物と變じて族長のかゝる生産品の收奪以外に、又商業上の收奪と商業上の奸策が行はれてゐる。一切の商業及び一切の交換は、均しく中國人の手に操られてゐる。貨幣の權力伸張は、蒙古土民の王公か官僚・銀行業・或は商業高利貸の手に陥つたと同様に、游牧の蒙古土民を商人高利貸の操縦に陥らせた。商業は、牧畜經濟に沈滞せる家内手工業を餘す所なく破壊した。中國の影響の及ぶ所の地方では、乾酪・バター・クツション・製革・及び大連被等の經營は、すでに中國人の手に落ちた。凡そこれ等の地方に於ける大連被は、すでに工場の製造品になり始めた。蒙古經濟は、羊毛事業に至つても亦中國人によつて經營されており、すでに禁止されたとは云へ、何等の結果も見られなかつた。その衰微の程度は實に計り知れない。蒙古人が中國商人に支出する絨毛は、約三〇——六〇パーセントであるが、收得する所は、たゞ毛氈だけである。絨毛貿易は、我々の見る所では、均しく直接欺瞞の原則下にある。

牧畜貿易は、回教商人の壟斷する所である。直接生産者と市場との直接の連繋は截斷されて不通である。従つて自己の商品の報酬は均しく不平等の價值量を得るに至つてゐる。商業高利貸資本の歴史上に於ける最も醜惡な一頁は、又更らに内蒙古に現れてゐる。

市場、高利貸及び家畜の傳染病或は氷雪のため凍死を蒙る災禍等は、自然、牧畜經濟をして、商品或は貨幣に於ける根幹を、永く鞏固にする希望を失はしめた。而かも租税の壓迫は又かゝる過程を促進する。さらに王公の浪費と奢侈は壓迫の連環を形成する。即ち「哈淞」が債務償還の方法が無い時には、中國の商人、官吏、及び高利貸は、王公から土地を買ひ取つた。かくて牧畜に従事する蒙古人が牧場を追はれて、得る所はたゞ殘された荒亡の地であり、これ等の蒙古人の牧場は、遂に拓殖の根據地として利用された。そして蒙古人は國家の僻邊の地に追ひやられた。以前「哈淞」は均しく僻地に遷移して、その地には他の移民が生活する様になつた。中國の邊境附近の舊哈淞は、僅かに三四十のテントを見受けるだけで、僻邊の地には、以前三〇〇——四〇〇位ひであつたのが、今では牧民のテントが一、〇〇〇位ひまで増加してゐる。

游牧制度は完全に破壊され、新哈淞の王公は、勿論租税を賦課してゐるし、舊王公も亦その私有の「權力」を放棄してゐない。

時に宗族は蹶起して王公の壓迫に反對する、トウクイルオ、即ち宗族會議が召集される。叛亂した蒙古人は常に王公及びその貴族を包圍した、そして五六千或は一萬の激昂した蒙古人は一齊に起つ

て、王公の奢侈「無道」を罵倒した。僧侶は常にこのトウクイルオ（蒙古人の家族會議のこと）の組織者であつた。又時には王公が殺されることもあつた。だが大半に王公が巨額の税金を徴發せず、且宗族の財産を保護する等、過を改むればそれで許された。そしてトウクイルオに参加した蒙古人はたちまち散會するのである。王公は暗に運動の主謀者を處置し、即ち或はこれを買収したり、或は死刑に處する。新興蒙古の知識者は常に國民運動を組織せんと企圖してゐる。だが四分五裂の牧民は、歴史の傳統觀念、佛教喇嘛權力の深入、及びそのおくれた野蠻な生活が重なり重なつて、この組織はなかなか形成困難である。

綏遠の西部一帯では、運動は不斷に勃發し、且日に益々猛烈となつて、蒙古人民共和國の革命の影響の下に國民革命黨が組織されてゐる。

この時蒙古人は好い牧場から悪い牧場へ追はれたが、この悪い牧場は又漸次荒蕪の地に變じた。二三の地方では蒙古人自身も地主に轉化し始めたが、久しからずして一般の過程と同様に、蒙古人の土地は漸時一步一步收奪され、中國の商業高利貸資本は、家人、家族の土地を、自己の掌中に獲得した。

蒙古人が驅逐されて、その土地は、商人・高利貸業者・官僚・及び軍閥の手中に轉入したが、これ等の軍閥は後遂に墾殖局を組織成立した。普通に行はれてゐる方則によると、王公より蒙古人の土地を高價に買い取り、購買價中の百分の三十は王公がこれを取得し、百分の五十は墾殖局に獻じ、百分

の二十は墾殖局の井戸掘りの費用に供せられた。井戸のない土地は賣却或は小作に困難であつて、中國では井戸を掘ることは、一つの専門的職業である。(註)

(註) スミス著「支那に於ける農村生活」を見よ。

最近十年以來、中國の移民はすでに内蒙古に侵入したが、生産用具をもつてゐない者は小作農となつた。商人式地主、高利貸地主、官僚地主は、土地を小作させ且器具及び種子を準備しており、小作農は收獲の五割乃至六割を地主へ支拂つた。

これ等の地方では常にこの様に耕作されてゐた。それは中國の本部では、殆んど見られない所であつて、正確に云へば、完全に資本主義以前の、過去の一種の收奪形態である。(註一) 生産用具を有する移民(彼等は故郷で、先づ誰かの土地を買却した)は、比較的低廉に、比較的多くの土地を買ひ入れることができた。だが彼等はやはり完全にこれ等の土地を耕作することができなかつた。なせならば彼等自身の用具は、ただ小經營に適用するものであり、而かも又肥料が全體の土地の需要を充たすのに充分でなかつたからである。故にそれはただ土地の一部を耕作し得るだけであつて、掠奪的經營は土地を漸次貧瘠せしめ、遂に又その貧瘠地を放棄して、その所有地中の他の部分を耕作させるに至つた。大量の移民が到來するに及んで、彼は自己の土地の大部分を小作に出し、或は賣却した。移民中の小部分の者は、これがために富農となり、又は土地投機業者となつた。滿洲里の地價及び小作料の騰貴、經濟(單位)の縮小、高利貸商人の暴虐、肥料を施す耕作が加速度的に形成されること、

及び蒙古人を收奪し驅逐したる商業高利貸の中國の農民に對する壓迫等は、亦こゝでも更らに同様の過程を演じた。(註二)

(註一) 滿洲里の二三の地方ではまだこの様である。

(註二) 拓殖過程の二三の情勢に就いては、著者がカルカのソヴェート同盟領事クリーマフから引用したものである。

中國の土地關係は內蒙古に現れた。凡そ人口が稠密であればある程、その關係は更らに中國本部の狀態に似て來た。社會的壓迫は二つながら蒙つた。中國人と蒙古人の人々は、五と一の比例であつた。城内はすべて中國人で充滿してゐた。中國の將軍達及び官吏が、その宗族を管轄した關係は、丁度中國の商業高利貸資本が蒙古人の牧畜經濟の最高權を獲得したのと同様であつた。

この外又戰爭及び軍閥の壓迫を受けた。戰爭の被害は、即ち苛酷な税金、徵發、掠奪、地主及びその家畜の運搬的負擔、紙幣、軍用票、農民財産の侵略等々の壓迫である。だがこれ等の地方の貧困は、尙ほその他の原因がある。例へば一九二六年、墾殖局が投機官吏及び商人に土地を賣却したが、これ等の人は又移民に轉賣したり、或は彼等に小作させたりした。後日又新しく着任した督辦は、宣言を發して、警辨時代定めた所の一切の契約を無効とし、重ねて登記させ、且強迫して新たに代價を支拂ひすることができた。(註)

(註) 現在農民中八割は高利貸業者の手に操られてゐる。これは中國の土地私用地の、神聖にして犯すべか

らざる事である。

かゝる状態は、土地を日一日と貧瘠させ、又生産の勞働力を益々低下させるものである。地主・高利貸・軍閥・商業・及び帝國主義者の生産者からの不斷の收奪は、全く生産改良の可能性を無からしめる。即ち滿洲に於ける中國の農民は、亦自己の經濟を再生産する可能性をもち得ないのであつて、これは内蒙古でも亦然りである。

農民經濟の再生産は、範圍が日一日と縮小し、勞働力の再生産をも縮少した。即ち土匪の猖獗をもつて、これを證明することができるといふ。だがこれ等は拓殖區域に於ける極まりなき收奪は、生産者を終身束縛し、蹂躪し、ドン底へたゞき落とし、帝國主義の層一層の支配は、かへつて日に擴大してゐる。

我々は、拓殖區の性質の叙述に對して、更らにより詳細に、より精密に考察を下さねばならぬ。勿論、これより外になほ別の主張がある。即ち、例へば、多數の中國人及び中國人のみにとゞまらず中國本部には「地主はゐない」、「地主と他者の分別はない」と云ひ、或は「實質的に農業關係の意義上に於て、土地問題は、その問題にならないものであつて、「問題となるものは、たゞ農業上の移民の問題だけで、この問題の解決はたゞ開墾の一途があるのみだ」等々云つてゐる。ロシア立憲黨及び自由黨の理論は、又中國に再現したのである。ロシアに於けるこれ等の人達は、「農奴を必要とする制度が直ちに取消さるべきではなくして、又數百萬の地方人民の農奴的收奪に在るのでなく、又その束縛及びその生産力の發展に於ける消耗に在るのでなくして、當面數百萬の家族をシベリア及びトル

キスタンへ移住させる方法がないからである。」(註)と考へた。中國に於ては、多數の中國人は、小作關係を動搖させることは必要でないし、「小地主」を毀損することも必要でなくして、數百萬の農民やその家族を滿洲或は內蒙古に送ることが必要であると思つてゐる。

これ等の人達は、中國の土地區劃、或は資本を費さずして耕作し得、自由に賣買し得る田地が相對的に多くない、と云ふ一點を忘却してゐる。もとより、最近の官廳の統計によれば、奉天省には一三、六九五、〇〇〇畝あり、吉林省には三二、一六一、〇〇〇畝、黑龍江省には八八、八四四、〇〇〇畝あり、合計一三四、七〇〇、〇〇〇畝ありて、耕田の用となし得る。內蒙古の直轄區では、上の統計によれば、二、二三〇、〇〇〇畝の地方に於て、尙ほ住民は六百萬人に及んでゐない。而かも未耕地の土地が非常に多く、もし一定の水準まで技術が高まつたならば、大部分の土地は、耕作することができ、而かも資本を費さずして耕作することができるのである。地域は絶對的には、非常に大きいものである。だが中國に對して、特に中國農民に對して、それは救済と云ふ巨大な現實にとつては無關係なこととなつており、土地の救済のための全能なる道具となつてゐない。中國農村の經濟的改良水利の設置、運河の開鑿、池沼の開濬、即、無用の土地を有用の土地に變ずるための資本は、土地の元本の二倍も三倍にも當るのである。だがこの目的に到達するための前提は「中國に於ける農業の舊制度を覆すにある。如何なる空想をも放棄することによつて、始めてロシアの土地を無用なものから有用なものへ變じ、すべての缺點を補ひ得たのである。だがロシアの經濟の全歴史から證明された所の

事實及び、それがロシアのブルジョア革命を如何に形成したかの大きな特徴は、必ず明白に認識されねばならぬ。ロシアは偉大なる開墾地を占有してゐた。だがその開墾地が人口稠密及び高度の文化に迄達し得たのは、單に農業技術の一般的な發展につれて共に進展したのみに止まらず、農奴としての壓迫から脱出せんとするロシア農民の解放運動の歩一步の發展に従つて發展したのである。」(註)

(註) レーニン全集、同上を見よ。

レーニンのこの言葉は、中國に於ても亦正確である。以前のアジア的制度を覆さなければ、中國本部の土地關係は、新しい拓殖區としてを復現するであらう。況んや該地にはなほ、終身の束縛、地主の壓迫、中國の土地の脅威、無法權、軍閥、及び數百萬の農民の飢餓と死亡、等が存在する。而して帝國主義はこの舞臺に於て大成功を收めた。日本は滿洲及び內蒙古に於ては「積極政策」を採ることを早くも宣言した。日本が滿洲から搾取するところの格別の利潤はすでに日に日に減少した。日本の東三省に於ける支配は、すでに財政的・經濟的危機の脅威を受けてゐる。日本の中・小企業家は、減少から破産へ趨き、大企業の額外の利潤も亦低下した。日本の滿洲に對する輸入は縮少した。日本帝國主義は、自國內に危機が発生したため、新たな經濟區域を獲得すべく進行した。日本帝國主義は中國の革命の前途を顧みずして、全滿洲及び內蒙古に對する自身の無理な要求を提出してゐる。

凡そ中國の人民が滿洲に移住し來たつて、それ等の未開墾の土地を開墾する様に希望するものは、單にアジア的の制度ばかりでなく、帝國主義なのである。

この外説明をつけ加ゆべきことは、この二三の拓殖區域中、特に滿洲に於ては、資本主義の發展が中國の如何なる地方よりも、すべて特別に急速であることである。各該地方には、日本の根コソギの收奪がどうあらうと、又戦争が如何に引き起され、破壊しようとして、又土匪が如何に横行し、税金賦課が如何に苛酷であらうと、更らに又高利貸が中國に於けると同様に如何に甚しいものであらうと、資本主義の發展はすべて事實繼續的に發生し、農村經濟の發育は如何なる區域よりも急速であつて資本主義の發展は、大きな前途をもつてゐる。

第八章 中國に於ける土地私有制の性質

と形態

一 緒 言

生産の前提及び農業労働の方法との觀點から、中國に於ける農業の特質を分析した後、我々は以下の諸問題を研究しなければならぬ。即ちその問題は、現在の労働方法の下に存在する社會關係が如何なるものであるか、生産條件の所有者と直接生産者との間の相互關係が、如何なるものであるかと云ふ問題である。もしこれ等の問題に回答しようと思へるならば、我々は先づ中國に於ける土地私有の性質を決定しなければならぬ。

英國憲法によれば、英國の一切の土地は、すべて英國皇帝に屬する。ハンガリーの一切の土地は、すべて神聖なるステファンに屬する。日本の封建諸侯は、一八六九年天皇に土地を返上する際、「普天の下王土に非るなく、率土の濱、王臣に非るなし」と上奏文に認めてゐるが、これは決して、英國やハンガリーの土地及び日本の封建諸侯が、土地を私有することを妨げるものではなかつた。

問題の事實は、決して憲法の形式にあるのではない、もし「土地の私有」と「國家は土地の最高の

私有者である」と云ふこの二つの概念を對立させるならば、それは極端な誤謬である。

印度の問題に就いて、英國の理論家達は、回教と印度古代の法律によれば、一切の土地はすべて國家統治者に屬するものだ、と云つてゐる。事實、すでに世を去つたルクセンブルグは、この點に就いて曾つて論争したことがあつた。彼等は、回教と印度古代の法律が、決してかくの如きものでなく、かゝる理論は、たゞ大英帝國の掠奪政策を陰蔽せんとするものに外ならないことを證明せんとした。彼等は云つた「英國の學者及びそのフランスの同僚達は、現在中國に對しても、同様な論調をまた保持しており、中國に於ては、一切の土地は、すべて皇帝の私有である、と彼等は云つてゐる。」と。

(ローザ・ルクセンブルグの「資本蓄積論」を見よ。)

我々は、これが必ずしも正確でなかつと思ふ。ローザ・ルクセンブルグは、英帝國の印度に對する土地政策をあまりに簡單化してゐる。マルクスの言葉を根據として、彼は、英國人が、印度の或地方に於いては大なる土地私有を創造し、他の一地方ではかへつて小農的私有を發展させ、第三の地方では古代の共同體を破壊し、第四の地方では共同體をその私有に轉化しやうとしたと、滑稽な説明をなしてゐる。大英帝國は完全に一切の古代法律の原則を放棄した。彼等は印度の土地を攫取し、農民の貢税を奪取したが、それは決して古代法律の力をもつてしたのでなくして、自己の大砲及び印度の支配階級との聯合の力をもつてしたのである。彼等は土地を租税請負人に讓與して、私有させ、それまでにあつたラツヂヤ (印度貴族の稱號——譯者註) と租税請負人の土地を沒收して共同體の所有と規定し、

農民の私有を援助し且つ發展させ、地主が略奪してゐた土地を農民に返還し、古き地主を弱めて新しき地主を助長した。シーパーイ（即ち英國が募集した印度兵——譯者註）の暴動以後は更に他の領主及び貴族を結成してこれと協商し、地主の農民に對する略奪を制限し、ある等級の土地の私有を強固にして、その他の等級を強固ならしめぬやうにした。あらゆるこれらの行動は同じく地租の徴收及びその政治的利益によつて驅使せられた。英帝國主義は非常に早期から高利貸業者に印度の農民甚しきは封建諸侯の土地に對する略奪を許してゐた。しかも其後に於いては、幾多の地方で、法律の條文の上で土地を農業に従事しない階級に賣ることを禁止しさへした。英帝國主義は、土地關係に於いて、かくの如く混亂した局面を造成し、土地關係をかくの如き一つの袋小路の中に押し入れたが、それは今に至るまでもなほ小袋路の中に停滯してゐる。土地の集中と動員は、印度に於いては、非常なテンポをもつて進行してゐる。即ち高利貸者・商人・地主は、昔すべて土地を自己の手中に集積したが、土地の私有に就いては、完全に印度中世紀的狀態並びに國の強力な壓迫の庇護の下に停滯してゐる。これ等一切の情勢の下に、土地の國家私有の「理論」は、僅かに補助的作用を與へたに過ぎなかつた。英帝國主義と印度の支配階級は、即ちかゝる理論の掩護の下に、農民から剩餘生産品を搾取してゐる。英帝國主義は、印度に於て曾つて現代的土地私有制度の創造に努力した結果、勢ひ一方では従前の地代收納者と妥協し、他方では又土地を注視してゐる（それを生存の必要條件としてゐる）農民と協商を進めた。英帝國主義は、幾多の地方で、以前の地代收納者のために土地の私有權を鞏固にした

し、又以前の生産者のために、土地の使用權を鞏固にした。

ジャバ・朝鮮・馬來群島、フィリツピン等の地方に於ける、土地私有の性質と形態及び土地關係の發展の歴史は、一寸研究しさえすれば、かゝる論斷の正確さを證明するに足る。帝國主義者はかつてこれ等の國家に於いて、土地の私有(近代的な)を造成し、封建的及び半封建的性質の私有を造成し、族長を地主及び農村共同體の體長となすこと乃至は土地の私有者となすこと等々に努力し、商人・地主・外國の開墾業者・及び殖民地の土人を用ひて、共同體或は國家の土地を掠奪する途を開くことに努力したが、同時にかへつて寺院の土地私有を鞏固にし、而かも小作農の土地の使用に對して恒常的な半永久的な權利を附與した。帝國主義が舊土地關係を破壊する方法は、完全に尋常と異り、それは永遠に具體的であり、曲線的である。帝國主義は勢ひ常に殖民地の支配階級と妥協するが、時には又殖民地の農民とも妥協する。

中國には土地の私有制があるや否や、或は一切の土地は皇帝に屬するや否やに就いて、以前論争があつたに拘らず、それが無結果に終つた所以は、問題の構成方法が不正確であつたからだと我々は認める。古代社會は、その發展が青天白日の下にある時は、決して土地私有はあり得なかつたが、かゝる社會が瓦解した結果、始めて土地の私有が出現した。だが古代社會の土地私有は、決してブルジョア社會の土地私有ではない。東洋の社會も亦同様に土地の私有を知らなかつたが、たゞかゝる社會が瓦解した後、始めて私的土地領有が現れたものであつて、東洋社會の土地領有は決してブルジョア

社會の土地私有ではない。土地の私有は、決して永久的範疇のものではない。それは社會の一構成の下に、かゝる構成に照應して現れた形態である。

東洋に於ける各國では、帝國主義が未だ侵入しない以前には、土地は慥かに慣習法及び傳統と適合して居り、それは直接生産者の生存の必須條件だと認められ、東洋の人民は、土地税と地代の認識に對して、相互に決して異つた觀念を持たなかつた。だがかゝる傳統的觀念は資本主義の内在的規律と相互に矛盾するものであり、而かも後者の打撃の下に消滅すべきものである。

マルクスは、東洋（彼が注意した處は、トルコ・ペルシヤ・印度である）に於ける土地制度の全基礎は、「決して私有制がなかつたと」云ふ事實の上に打ち建てられたものだと認めた（註一）。エンゲルスは、「土地私有がないことは、實際全東洋を理解する鍵だ」と認定した。（註二）マルクスは一般に以下の様に認めた。即ち「かゝる觀念——自由なる土地私有の法律的觀念——は、古代社會に於ては、體制的の社會秩序が分解された時期にのみ、また近代社會に於いては、資本制生産の發展せる處にのみ、現れて來るものである。それは、アジアに於ては、僅かにところどころヨーロッパ人によつて輸入されたに過ぎない……。」「資本制生産方法それ自身が、農業を資本の下に隸屬せしめることによつて造り出すものである。然る後、封建的土地所有や種族所有や、マルク共同體に於ける小農民所有なども亦、その法律上の形態が如何に相異なるにしろ、資本制生産方法の要求に適合した經濟的形態に轉化されて行く。」（註三）「ヨーロッパに於ては、直接生産者の、非經濟壓迫、個人的依屬、個人

的奴隷の不自由、及び彼等が土地に對して封建領主の鞏固の附屬物となつたのは、すべて曾つて封建領主によつて實現されたものであつた。然かして「若し土地の私有者がなく、アジアに見る如く、國家が直接彼等と對立し、帝王が土地私有者の性質を兼有してゐるとすれば、その場合には、地代と租税とが一に歸する。と、云ふよりも寧ろ、斯る地代形態と異つた租税なるものは何等存在しなくなる。かゝる諸事情の下に於ては、隷従關係は、政治上にも經濟上にも、この國家への一切の臣屬關係に共通せるところよりも苛酷な何等の形態も採るに及ばぬ。この場合には、國家が最高の地主である。この場合、主權たるものは、國民的規模に集積された土地所有であるが。他方にまた、土地の私的並びに共同的な占有及び用益が行はれるとは云へ、土地私有はなにら存在しないのである。」

(註四)

これは、アジアに於ける土地の法律關係に就いて、マルクスが與へた古典的簡略な解釋である。だが、もしも土地私有者のかゝる法律形式が、一種の靜止的狀態にとどまり、従つて恰もアジアの國家が、すべて資本主義の國家に附屬し、且これ等の國家内に於ける帝國主義の侵入が全社會革命を捲き起すものだ、と考へるならば、それはマルクスの學說に對する汚辱である。

帝國主義とアジア各國に於ける資本主義の發展は、過去に於ても亦現在に於ても、土地に對する私的或は共同的獨占又は用益を私有制に轉化し、それを資本主義的生産方法に適合せしめんと努力してゐる。この場合、我々はアルゼエリア・エヂプト・モロッコ・南アフリカ・ジャバ・マレー群島及び一

般殖民地や半殖民地の國家に於ける帝國主義の流血の功績を釋明せんとするものでは決してない。これ等の國家内の大部分には、まだかゝる轉化の過程が完成されてはゐない。これ等の國家に於ては、この過程は決してブルジョア私有制の創立を伴ふものでなく、封建的私有制の創立を伴ひ、進行するものである。他方農民或は従前の地代收納者の反抗は、帝國主義を脅かし、土地領有權及び土地用益權の舊形式を鞏固にする、「簡単に云へば、過程のかゝる進行は、決してその純粹な形態（即ち謂ゆる抽象的形態）に依存するものでなくして、殖民地及び半殖民地の國家の各階級が、一方自己相互間に、他方帝國主義との間に於ける妥協の結果であり、或は鬭争の結果である。従つて我々は殖民地及び半殖民地の國家に於いて、土地領有權及び土地用益權の、新たな又は古い形態の各種各様の繪巻物を見得るのである。

我々の任務は、或る一國家の土地關係及び帝國主義の侵入につれて喚起された變動を具體的に研究し、各種の異つた形態の比重を造り出して、以つてこれ等の異つた形態に於いて、何が主要な役割を演じてゐるか、亦その發展の趨向はどんなものかを決定することである。

(註一) 一八六三年六月一日のマルクスのエンゲルスに與へた書簡

(註二) 一八六三年六月六日のエンゲルスのマルクスに與へた書簡

(註三) マルクス「資本論」第三卷第二冊一五六—一五七頁

(註四) マルクス「資本論」第三卷第二冊二二七頁

二 非私有地

土地占有は、中國に於ては色々異つた形態で存在してゐる。我々は先づ形態の上で比較的重要でないものから述べて行こう。

(一) 侯地 清朝が北京に都を定めて以來、皇帝は中國の擴大な土地を掠奪し、毎年の皇室の用度に充當した。

皇帝の親族も亦これと同様であつた。サハローフの證明する所によれば、一八四〇年侯爵は二五、七二頃七五畝（譯者註——一頃は一〇〇畝）と云ふ擴大な土地を占有してゐた（註一）。この外皇帝は各級侯爵及び宮廷の所屬員に與へる土地をもつてゐた。

皇室の用度としては、毎年中國の農民から一、〇五六、〇〇〇銀元を徵收せねばならなかつたし、亦かゝる朝貢以外に、各官吏は亦皇室に貢物を贈上した。而かも「國庫及び朝貢の貨幣以外に、侯爵の農民は又經濟上必要なる幾多の貢物を送つたので、北京王朝の費用は、いさゝかも國家の收入に依頼してはゐなかつた。」（註二）清朝の初期、侯爵の農民は土地に縛りつけられてゐた。遠く十七世紀の當時、逃亡した奴隸に對しては、これを死刑に處し、而かもなほ逃亡潜伏を援助した人間に對しても同様の脅威を與へた。滿洲の貴族は、急速に自己の土地を多大に浪費した。侯爵の土地に關しては、清朝が滅亡した以後は、直隸省の侯爵の農民は再び貢税を納めはしなかつた。奉天の張作霖が直隸省

には入つた當時、前清の廢帝は、彼に對して「秩序」の恢復を請求し、且つ農民を強迫して地租を納入させようとした。張作霖もまた適當な命令を頒布した（伊鳳閣教授の通信による）。我々は農民が地租を納入したか否かは知らない、吾人の想像する所では、多分彼等は納付しなかつたろう。なぜならば、天津に留まつてゐる廢帝は、長い間財政的窮迫に陥つてゐるから。滿洲にある廣大な彼等一族の土地はまだ完全に廢帝の私有財産と認められてゐる。過去の侯爵は、すべて蔬菜・果樹・蜜蜂・甘蔗・棉・花卉・等を培養してゐたものである。従つてこれが、北京及び天津が現在に至るまでも、中國のその他の都市に比較して、園藝及び菜園の出産品がより保障されてゐる原因である。現在侯地は完全に何等の意義も有してゐない。

二、旗地 滿洲の軍隊は、八旗から組織されてゐたものであり、その軍隊の用度として、毎年五九五、四七八銀元と三、〇二二、二六九袋の米が消費された。過去に於いて滿洲に駐屯してゐた中國の最もいゝ軍隊、即ち祿旗の軍隊は、毎年一四、〇九六、九〇九銀元と一、六六六、二三九袋と云ふ莫大な米を消費してゐた（楊聞孚著——「中華帝國統計冊」を見よ）。

この外滿洲の貴族は、かつて廣大な土地を收奪したが、十九世紀に於ては「一切の八旗の兵士及び邊境地の官吏が占有してゐた土地は一四〇、一九一頃七〇畝と計算し決定される。」（サフハーロフ著「中國の土地私有制」四五頁を見よ）

旗地は旗人外の者に賣買讓與することを禁止されてゐたが、かゝる禁止は久しからずして存在しな

くなつた。滿洲の貴族は、かつて自己の土地を浪費した。皇室は旗地を買ひ戻すために少なからざる國庫の貨幣を消費したが、滿洲の軍人が土地の賣り拂ふ趨勢は防止すべからざるものであつた。十九世紀の後半旗地の賣却は公然と自由に行はれた。現在直隸省にはすでに旗地なるものはなくなつた。かゝる土地占有の形式は、滿洲に於ても亦同様に殆んど完全に解體された。

蒙古の旗地は、他の運命に遭遇した。蒙古はかつて滿洲の中國征服の際の同盟者であり、且滿人は蒙古の侯爵への感謝の報酬として、蒙古旗の土地私有を承認したが、中國人は蒙古に屬する遊牧地を取得することも、租借することも許されず、而かも政府は「常に武装して移民の歴次の侵入を防止した」。然かし「移民の侵入」、高利貸商業資本の發生、鐵道の敷設は、即ち旗地の基礎を破壊した。拳匪の亂の壓迫以後、北京政府は財政困難に壓迫されて、一九〇二年蒙古旗地の賣買をなし、自發的に一つの「墾植局」を組織した。蒙古の土地には即ち中國人の開墾が開始されたのであつた。北京政府がかゝる開墾を多大に提唱した原因は、財政的計畫以外に、又ツアールのロシア帝國主義に反對する方法からであつて、ロシアは滿洲を取得した以後、蒙古の領地を獲得せんとの努力の第一歩を踏み出してゐた。

事實、我々が見る如く、滿人は中國を征服した後、中國の或る二三の部分（北京城外近郊と直隸省に於いて）に對して、類似せる封建的組織——王地や旗地の形態による土地領有——を樹立した。魏朝元朝が中原に蟠居した當時にも亦同様に、これに類似した現象があつた。他方或る種の情勢の下で

は、商業高利貸資本が政治的関係内で革命化の影響を現はし、舊式の私有形態を破壊し、且滿洲貴族の勢力の一つの基礎を破壊したことを我々は看取するが、我々が看取し得る現象によれば、なぜ蒙古の旗地に関しては、その情勢がいさゝか異つて來てゐるのか？ 蒙古の族地は、蒙古王侯の私有では斷じてなく、あつた所で稀であつて、それはそれ等遊牧民族の族長としての王公の所有であり、或は、更らに適切に云へば、民族の占有である。が然し商業高利貸資本が、その土地の占有を剝奪する點から見れば、今や蒙古の民族組織を分解し、且民族占有の基礎を破壊して、而かも事實上王侯をも土地私有者に變へつゝある。或る種の情勢の下では、商業高利貸資本の、蒙古種族に對する影響は、革命的であり、それを分解し、且それを強迫して土着地主へと趨かせた。

三、寺院及び教會の土地 この點は中國の歴史上非常に興味ある問題であり、即ち「死んだ手」は中國に於ては決して土地占有の性質を多かれ少なかれ強固にするものではあり得なかつた。佛教の寺院と特別な節慾とは決して區別されるものではない。事實九世紀唐朝が最初に寺院の財産を沒收した當時、佛教の寺院の領地と製造場内には、かつて二十五萬七千人の半自由な小作農と十五萬人の奴隸が存在してゐたし、唐朝は數十億頃（頃は一〇〇畝——註者譯）の土地を沒收した。明の末葉に至つて寺院の財産は再度沒收されたが、沒收したる土地は皇帝の親族に剝奪される所となつた。儒教も亦同様であつて、他のあらゆる宗教に比べて蔑視し得ない。だが寺院が政權の分轄を企圖し始め、大規模に人民を搾取することに努力した當時、或は寺院が過剰の財物を蓄積し始め、農民の騷亂も比較的平

靜であつた。當時、中國の地主や官僚地主は寺院の劫奪を開始した。彼等は常にかゝる却奪によつて農民を剝奪したのである。

大寺院ばかりでなく、即ち小さな分院も亦同様に、土地に蟠居し、且土地を小作農に貸與して、年貢の半數或は過半數を收奪した。未來の官僚を養成する學校（それを卒業すれば學位を與へらる）は大都市に存在してその基金に充用する土地を擁してゐた。都市や農村の機關、及びその公共の倉庫も亦同様に土地を有してゐた。サファロフは云ふ「租税は公共の消費或は某種の不幸な事件を援助するために用ひられる。」と（我々は「公共の消費」がすでに官僚の懐に落ちたことを知つてゐる）。サファロフは同様に、この三種の形態の土地の數量は非常に少く、合計約二一、三三三頃一三畝であると認定してゐる。（同書を見よ）だが我々は著名なる中國問題の研究家——サハロフが時に完全にデタラメを云つてゐることを認める。

孔子の後代——孔族——は、山東省數千畝の土地を有つてゐるが、直隸省にも亦一萬二千餘畝と云ふ廣大な土地をもつてゐる。孔子の門弟たる孟子の後代は、同様に亦山東省に於いて數千畝の土地をもつてゐる。孔子の他の門弟顔回の後代も亦同様である。鄒縣にある孟子の廟は五千畝の土地を所有してゐる。孔子の廟の所有地も亦漠大なものである。一八八〇年ゼームソンは、江蘇省北部に在る佛敎寺院の最大の財産は三萬餘畝の土地であると發表してゐる。パークの教授の考察した結果によれば、安徽省には一〇二個の經濟單位があるが、その間教會の占有地は九二〇畝の比例である。最近新聞紙

上には「塾の土地賣却の廣告がよく掲載されてゐる。一九二七年の初め北京の陸軍は關帝廟の土地を入質賣却せんと企圖して、かつて一大物議を惹き起こした。内務部はかつて天子廟及び孔子の廟の土地を人民に賣却すると公布したことがある。だがこれ等一切の廟の所有地は、湖南省の寺院の所有する土地に較べれば全く言ふに足りない程の僅かなものである。佛教寺院の寺領は、湖南省では土地關係に於て極めて大きい作用を惹起し、各寺院の占有地は十畝甚だしきは百畝乃至千畝である。廣東廣西の兩省では寺院の土地は少額である。浙江省に於ける道士（道教の僧侶）も亦數千畝の土地を私有してゐる。

我々はその他の省がどんな情勢であるかは知らない。要するにサハロフはまるきり寺院、教會、機關及び塾の土地面積を無標準に縮小してしまつたことになる。而してあらゆる研究家の一般の印象は次ぎの様である。即ち寺院は土地私有の性質上、中國に於ては決して大きい役割を演じてゐない。中國の官僚は總じて寺院の意義を低減せんと努力し、寧ろ人民をして掠奪せしめてゐる。教會、機關及び塾の私有地の殘餘は、すべて引きつゞき競賣に附せられてゐる。「死んだ手」としての土地私有の殘餘は終に掃蕩されんとしてゐる。この點に關しては中國は、歐洲、南米、及び回教諸國家に勝つてをり、これ等の國家に於ける「死んだ手」はまだ完全に活きた農民を壓迫搾取してゐるのだ。

四、軍事的な移民地　それが形成されたのは遊牧民族の侵入襲撃を防禦するがためであり、同様にまた「内部の敵」との鬭争のためであつた。軍事移民の所有地は過去に於いては賣却することを許されなかつた。これらの土地の所有者は兵役の義務を負える人々であつた。元朝及び明朝の時代には軍事

的な移民地は極めて大なる役割を果してゐた。明朝の政權が樹立されてからは、あらゆる耕地の七分の一は軍事的な移民に屬するものであつた。清朝は同様に軍事的な移民地を作つた。だが、行軍の際にはかゝる經營は大なる破壊を蒙り、土地は悉く軍事長官のために掠奪され、軍事的な移民は結局通常農民以上にひどい境遇に陥つた。第十七世紀末には四十萬頃を占めてゐた移民地の土地が、第十八世紀の中葉には、統計によれば僅かに二十五萬九千四百十六頃の土地に減つてしまつた。近代的な形態の軍隊を組織しやうと企て始めた際には、軍事的な移民は早くも通常の農夫に變つてしまつた。過去に於いては彼等は土地税を納めた。そして現在では、軍事衣料の購買の形式によつて、彼等は通常農民に比較してずつと多くの現金を搾取されてゐる。軍事移民地は一八九八年に取消された。中國屯田兵の歴史もまたかくして終結した。

然り、かゝる土地の所有形態は、第二十世紀の初めにすでに解體されたのだ。そして二三の報告によれば、その寥々たる殘存物は僅かに西藏になほ存在してゐるばかりである。然しながら、我々はなほ未だそれらの報告を實證するを得ない。

五、血族または氏族の土地　かゝる土地所有の形態については、我々は各民族の歴史にその例證を見出し得るし、またあらゆるこれらの事實が證明し得るものは、中國古代の歴史もまた同様にかゝる所有形態より始まつたものであるといふことである。マルクスもまたこの點を指摘した。疑ひもなく、中國に於いても印度に於けると全く同様に、共同體が會つては社會の基本單位であつた。中國に於ける

民族共同體の破壊は遠く紀元前數百年の以前に行はれた。その原因は、生活範圍のその他の部分（争奪、戦争、灌漑の必要、共同體内部に於ける職務の分業、各共同體間の交換、共同體内部の交換等々）に於いてそれがすでに解體しつつあつたことである。土地の所有者としての村落共同體もまたかゝる原因の影響の下に解體した。紀元前第三世紀の頃には共同體的所有はすでに破壊されてゐた。中國南方の數省（廣東省、福建省、貴州省、廣西省及び四川省の一部）では、民族の所有制が民族的生活秩序の殘存と同じく、完全に、なほ極めて大なる役割を持つてゐることは一層驚くべきことである。これらの諸省では民族共同體は時として村落共同體と合體してゐる。他方では、一村中にも二民族、四民族乃至は極めて多くの民族が住んでゐるのが常である。だが一民族或ひは一血族が一つの全村落を包括してゐるのが常である。更に最も明白なことは、我々が民族の所有そのものうちに私人の土地領有を見出すことである。民族的所有制は民族員の土地の使用とは完全に一致しない。民族の土地はある時には民族の成員に與へられることもあるし、ある時は成員以外に與へられる。そして形式的ではあるが民族の土地の收入のみが民族の共同的所有と考へられてゐる。次に我々が見やうとすることもまたかゝる共同所有制の眞實の姿を發見しやうとすることである。

中國に於ける民族制度の殘存、或ひは、より適切に言へば、民族制度の觀念上の上層建築はなほ完全に人民大衆を極めて力強く支配してゐる。祖先の崇拜は種々形態は異つてゐるが、中國の祭祀、中國の佛教、道教、孔教及びまだ固有の名稱を持つてゐない民衆のあらゆる宗教的世界觀の基礎となつて

ゐる。大衆の意識の上に及ぼすかゝる祭祀の力とその權威とは極めて大きい。中國の農民は自分の父親或ひは兄弟を墓地に埋葬するために全家産を盡く高利貸の咎の下に投げ出し甚しいのは永遠の奴隷として自分の身を賣つてゐた。十九世紀の頃には福建省、廣東省（及びなほ氏族所有制を保存してゐた一般の諸省）では、放火、殺人、掠奪、婦人の拐帶、水利の破壊、種族の墓地及び祠堂の破壊は遂に通常の出來事になつてゐた。これらの罪名によつて政府に追及搜索された血族のためには、その血族のうちから全血族員の責任を負ふ數人の血族員を提供し牢獄に送つて刑に服させた。これに類似の事件に遭遇すれば、血族は死者の家族に金錢及び土地を與へた。一九二三年——一九二六年の間にも廣東省に於いてはなほこれに類似の現象が通常のことであり、村落内の反動勢力は主として農民大衆の血族的偏見に基礎を持つてゐた。清朝がやがて滅亡しやうとしてゐた頃、中國の法律は血族及び家族が自己の血族員及び家族員に對して與へる連帶的保證を承認した。實質的にはかゝる連帶保證は現在では只紙の上で取消されたばかりである。

中國のその他の地域に於いては、そこではすでに民族的所有制の存在はなく、また祖先の祠堂の所有といふ形態に於いてもそれは何等の役割をも務めてゐない。然しながら、農村自身の名稱はそれが氏族共同體より發生せることを常に想起させるであらう。「李莊」「張莊」「王莊」等の類似の名稱は非常に澤山見出すことが出来るが、全村落の住民が事實上悉く同一族の村莊に屬することは極めて稀れにしか見出し得ない。中國の書籍中には姓を表す象形文字は二百字しか存在せず、即ち、また二百家族の

姓しか存在しない。換言すれば、全中國の人民は二百個の氏族或ひは血族中より繁殖せるものであり、その例へば生活上の、社會上の及び宗教上の上層建築の如きは極めて徐々に腐蝕されて行つたものであり、特に、その存在がその國家の獎勵、法律上の關係、生活上の様式、宗教上の學說、及び經濟の靜止的な状態に適合した場合にはより一層徐々たるものであつた。滿洲及び內蒙古に於いては、社會思想上の上層建築は、時としては經濟に對して反對的影響を示し、土地が廣大であるといふ條件があれば、百八十——二百、或ひは更にそれ以上の家族は、極めて稀れであるとは言へ見出すことが出来る。

極めて廣大なる土地を有する新しい移民の存在する區域こそ各家族の繁殖、その氏族の發展に適合するものであり、従つてこれらの家族は時としては三世乃至四世の期間を経過してもなほ共有制を保持してゐる。

家族及び血族の關係は、中國人民の思想中に於いては如何なる事情の下にあらうとも、もしヨーロッパ或ひはアメリカの人民の生活に比較するならば、比較すべからざるほどの極めて大きい役割を持つてゐる。資本主義がすでに帝國主義的形態にまで轉化せる日本に於いては、久しい以前にすでに消失せる氏族制度の思想上の上層建築は依然としてかくも大なる勢力を有してゐる。即ち、血族の紀念祭の際には、勞働者や小作農も、かの勞働者のストライキ、農民の騷擾の際に彼等を銃殺するところの同一宗族の族長或ひは銀行家と共になほ依然として一つの椅子に坐るのである。かかる思想の破壊は

近來中國に於いては極めて迅速に遂行され、それがために中國の新聞雜誌の上では、却つて「道德の衰頹」のために不平の聲が充満してゐる。

今や、我々は、現下の中國の民族共同體が過去のその他の國家に於いて發生せし氏族制度と如何なる區別があり、如何なる類似點があるかを見やう。エンゲルスはゴートのギリシヤ史を研究してアテネの民族の特質を次の如くに歸結した。

A、共通の宗教的祭典を有すること及び族長が敬神のための僧侶の職を分配する特權を有すること

B、共同の墓地を有すること。

C、相互的相續權を有すること。

D、援助、防衛、及び支持のための相互的義務を有すること。

E、一定の場合、特に孤兒となつた娘又は女相續人に就いては、氏族内で結婚することの相互的權利及び義務を有すること。

F、少くとも一定の場合には、それ自身の族長及び會計係が共有財産を所有してゐること。(註三)

そしてエンゲルスがローマの氏族について指摘せる特徴は中國の氏族の基本的な特質により一層接近してゐる。何故なら、ローマではすでに私有制が支配的であつたから。

「氏族員は相互的相續權を有する。……第一に相續するものは子供である、即ち男系の子供及びその子孫である。……共同の墓地を所有する。各氏族はなほ特別の埋葬のための墓丘を所有してゐる。……」

…共同の宗教的祭典を有する。…同一氏族内では結婚は許されない、…共同の土地の所有。ラテン諸種族に於いては土地は、種族の所有であり、各氏族は、それが經濟上から各個の家族に分れる場合に、各個の經濟生活の單位となる。…然し、我々はその後にも尙ほ氏族の土地所有を見る。…氏族員は相互的防衛並びに援助の義務を有する。…氏族名を名乗る權利を有する。」(註四)

我々は今や廣東省に於ける數個の血族の生活及びその組織を研究しやう。そこに於ける血族の所有地は全耕地の三〇乃至四〇パーセントを占めてゐる。(註五)我々は今數個の例證を挙げやう。

A、吳を姓とする血族は龐玉縣の郝各屯村に居る。この血族は五百人を有し百個の家族より成つてゐる。これらの家族は親族關係に従つて七個の大家族に分たれる。全血族は共同の祖先の祠堂を有し祠堂内で公衆に起る種々の事件を解決し、あらゆる祭典を舉行し、全血族の族長會議を召集する。血族は數千元の價值ある土地を所有してゐる。これらの土地は全血族の大多數の人々の同意を得なければ賣却することを得ない。血族の土地は貸付けられる。土地の収入は通例血族内の窮迫せる血族員を援助するために使用せられ、血族の防禦のための組織のためにも使用せられ、また全血族の祭喪のために用ひられる費用としても消費せられる。公衆間のあらゆる事件は血族委員會に於いてこれを處理し、また血族委員會は地租税を徵集し、血族の収入を處理し、血族内の紛糾を解決し、全村落の事務を管理し、學校を經營し、民團を組織し、全血族を代表して政權に参加し、また道路や橋梁の修築について注意する。今ではあらゆる政權はすべて最も富裕な血族員に操られて居り、更にそれはまた民團の

團長の手に操られてゐる。血族員の八〇パーセントは土地を持たない農民である。彼等は富裕な血族員の土地或ひは血族の土地を小作してゐる。小作の條件は普通のその他の縣の僕婢條件と少しも區別するところがない。窮迫せる血族員は普通の高利貸的利息によつて富裕な血族員から金銭を借用してゐる。血族員の間にはこのために常に武装衝突が発生してゐる。

B、孔を姓とする血族の系統は孔子より發生してゐる。それは八家族によつて組織されてゐる。百畝からなる血族の耕地と祖先の祠堂とを持つてゐる。六十五畝からの収入は祭典、血族の祝祭日及び民團の費用として消費せねばならない。十畝からの収入は血族員の結婚を援助するために用ひられる。他の十畝からの収入は族員内の學生を援助する（毎年一人につき二元）。他の十畝からの収入は子供が生れた際の贈物として使用せられる（各人二元）。他の五畝からの収入は寡婦を援助するための費用として消費せられる。血族の間のあらゆる事務は委員會によつて解決せられ、委員會に参加するものは六十歳以上の血族員、家長、及びその血族のあらゆる紳士である。試験を受け、また過去或ひは現在に於いて國家の職に任ぜられてゐるものは紳士に數へられる。富裕な血族員は高利貸的利息でなければ、貧困な血族員には金は貸付けない。

C、王を姓にする血族は二千人から成つてゐて三百の家族に分れ共同の祖先の祠堂を持つてゐる。血族内部でも血族的聯繫が比較的近いものはまた別個の共同の祖先の祠堂を持つてゐる。約四千畝の土地が血族に屬して居り、これらの土地は全血族の同意を得なければ賣却することが出来ない。土地

は貸付けられてゐる。八百畝からの収入は次のやうに分配される——教育、學校のために二千元、血族の祭祀のために一千三百元、婚姻の補助として十五元、小兒の出生の補助として一元、老人に對する扶助として八元乃至十元、葬儀の扶助として四元、道路のための支出として百元、民團のための支出として一千元、その血族の負債の利息として一千四百元、土地からのその餘の収入もまた大抵このやうにして分配される。血族委員會に参加するものは四十五歳の血族員、過去或ひは現在に於いて國家の職に任ぜられてゐるもの、富裕で且つ有力な人々及び家長等である。實際的には、政權及び金錢の處理は二三人の富豪及び有力な血族員の手操られ、委員會は殆んど何等の意義をも持つてゐない。七〇乃至八〇パーセントの血族員は一樣に土地を持たない農民であり、彼等が土地を小作するには極めて苛酷な條件を負担せねばならない。高利的貸借は血族中に於いては通常の現象である。

D、かゝる血族に對する「ボルセヴィキ派」の敘述の正確さは疑ふ餘地のないものである。我々は更に所謂公正なるアメリカ人クリツプの「フエニツクス」村落の血族の特徴に對する著述中より少しばかり引證するであらう。(註六)血族は共同の祖先の祠堂を持ち、また共同の土地を所有して居り、これらの土地は全血族の同意を得ざれば賣却するを得ない。血族の収入はその他の血族との訴訟の經過中の費用を補助し、喪祭のための補助にあて學生を援助し、登用試験を受ける族員に奨勵金を與へ寡婦を扶助し、祖先の祠堂、墳墓、橋梁、道路の修理のために支出される。血族の指導權は老年者の手中に握られてゐる。然しながら、血族内の心の腐つた首領は村落内の人民の階級分化を利用し、そし

て血族の基金を奪つてしまつた。これはなほ彼に對してなすべき譴責には數へられない。現在では血族の指導は二人の學者的な指導者の手中に握られてゐる。「血族中の協同一致は破壊されてゐる。：一部は血族員は他血族の援助を求め、自分の族の指導者から援助を求め、自分に比較してより多く希望してゐる。」種族間の相互關係は積極的な敵對關係に變つた。血族の内部は三つの社會的集團に分れ、そのうち富農は一八パーセントを占め、中農は三一パーセントを占め、貧農即ち普通の純粹な血族員は五一パーセントを占めてゐる。富農は個人的消費のために必要な以外に、なほ極めて多量の食糧品を持つてゐる。彼等は利息をつけて貸付ける。貧農は始終辛苦の限りを盡してゐる。クリツプは言つてゐる——『フェニックス』の村落ではすでに二つの社會體系の間の鬭争が開始されてゐる。血族の指導者達はなほ敵對勢力の性質を意識してゐないとは言へし。だが、血族の指導者達はすでに農民組合の意義を理解し、また民團や浮浪民を援助して自己の血族内の血族員を銃殺し始めてゐる、もし、その民團や浮浪民が地主の利益になる言葉に従ふならば、そして武力政策によつて農民の暴動を消滅させやうとするには、勢ひ自分の同族を殺戮せねばならぬことを彼等はすでに理解してゐる。彼等はすでに、所謂血族の協同と一致とが久しい以前からすでに九重の雲の彼方に飛び去つて居り、血族の内部が久しい以前からすでに二個の相對立する階級に分れてゐることを理解してゐる。

これらの叙述によつて極めて明白なことは、一方に於いては最末期のギリシヤ及びローマの血族、他方に於いては中國の血族、この兩者の間の主要な差別が次のことにあることである。即ち、共同體

的所有なるものがギリシヤ及びローマに於いてはすでに瓦解し、同時に土地私有制が創立され、そして中國に於いてはなほ共同體的所有制が保存されてゐることである。もし、中國の氏族と西アフリカ或ひは南洋群島の原始的氏族とを比較するならば、そこでは共同體的所有が共同體的土地使用權と相一致して居り、そして中國に於いてはすでにそれが存在してゐないことを證明するであらう。共同體の土地は血族内の血族員に貸付けられるか、或ひはその血族に屬せざる個人に貸付けられる。中國の氏族所有制が全く特殊な點を具有してゐることは極めて明白である。氏族的所有制が如何にして現代的な形態をとるに至つたか、我々はなほそれを理解してゐない。我々は更に如何なる力の關係のために、血族中の「有力な人々」が氏族の土地を取り上げなかつたかを理解してゐない。即ち、現在でも血族内部の各紳士間の鬭争及び傳統は血族内の「有力な人々」による血族所有地の直接的奪取を依然として阻碍してゐる。従つて彼等の奪取するところのものは土地の收入であつて決して土地そのものではない。教育に對して豫定された金額は富裕なまた有力な血族員の子供達が教育を受けるための金額である。民團は即ち富農が貧困な同族員に反對するための武装力である。祭祀費の一部分は紳士の財布から出さねばならぬものである。祭祀費の借金の利息の大半もまた血族の指導者の財布の中に落ちねばならぬものである。血族の基金は高利貸借を調節するためのものであるが、紳士達の流動資本として流用される。時としては紡織工場もまた血族の生産用具の一部に屬してゐる。「昔の血族は現代の資本主義的企業の株主に成つてしまつた。だが、利潤を得るものは決してかの無智識な血族員では

なくして、かの聰明なそしてまた有力な紳士達である。凶年に遭遇して生絲の國際市場の價格が製絲工場に缺損を生み出させた時には、缺損は完全に血族への「報告」中に列擧され、且つ血族の所有する金額もまた書き列ねられる。(「ヨルクの書けるところ」)。然しながら、あらゆる紀念日に血族員が得るところの金額は却つて滑稽なほど微少である。

この點に於いて多くの問題が発生する。何故血族の所有地が南方の數省に於いて保存されてゐるのか？ それは、中國の南方數省に於ける中國人の殖民化が北部及び中部に比較してより遅れてゐるためであるか否か？ これらの諸省中の住民が自己の氏族制度に依頼して、中國の移民者に對する反抗をより一層激烈にしたがためであるか否か？ 南方數省が受けたところの騷擾戰爭自然的貧困が比較的少なかつたがためであるか否か？ 土地の民族的所有が氏族所有地の收入の民族的所有へと變化したのは如何にして起つたのか？ 農民及び地主の土地が如何にして氏族共同體より分配されたのか？ 我々は、これらの問題に對しては僅かに良い加減な臆説を得ることが出来るばかりで、詳細な説明はなほ後世の中國マルクス主義者に待たねばならないと言はねばならぬ。だが、もし、過去の民族的生活に於いてすでに久しい以前に廢棄された思想上の上層建築の殘存的な勢力及び權威を洞察しないならば、中國の社會及び中國の實際生活を理解することは出来ないであらう。

例へば、支配階級は、自己の支配を保護せんとして、社會階級の分化を消滅させんとして、曾つて肉體的及び精神的なあらゆる壓迫的手段を擧げて一生懸命に社會思想上の上層建築を強固にした。商

業高利貸資本——この資本は中國に於ける資本の支配的形態である——はかの民族的宗教を商業化した。それは恰かもカトリック教及び正教を信奉する寺院が會つて自己の學說を商業化したのと同様である。貨幣經濟及び零碎的土地使用權なる條件の下では、かゝる觀念上の上層建築より發生せる宗教上の儀式及び生活上の習慣は高利貸借の華麗なる花に培つてゐるものである。一八八〇年に英人フイールは廣東省農民の經濟を研究し、「結婚費が騰貴して、二十年前には三十元を必要としたものが、現在では百元を必要とする」こと、そしてその事實こそ、廣東省農民が最も心を痛めることであることを「認め」てゐる。(註七)。一九二六年には、仕方なしに自分の土地を賣却した農民が四十三人に上り、そのうち九人のものは高利貸に償還すべき債務のために土地を賣却し、他の四人のものは喪祭或ひは婚姻の費用のために土地を賣却した(註八)。生活狀態の或る自然的な貧困化は、農民の豫算上の均衡の破壊及び農民負債の主要な原因である。少し以前に研究された印度の百九十二個の農民の經濟生活單位のうちで、百五十二個の經濟生活單位が高利貸に對して極めて重い債務を負つてゐたことを證明した。何故なら、家族と血族の祭祀、及び喪儀と婚姻の費用のために、高利貸の鐵蹄下に落ちたのであつた。(註九)

もし、印度に於ける主要事が婚姻であるとするならば、中國に於ける特殊な喪祭はより容易に農民を高利貸の懷中に投ぜしめてゐる。死せるものが生けるものを支配してゐるのである。そしてかゝる宗教上及び生活上の儀式の商業化はそれを瓦解に向はしめるべき前提を造つた。かゝる過程は農村に

於いて極めて緩慢に進行しつゝある。巧妙に且つ慎重にこの過程を促進させることが農民協會及び農村學校の極めて重要な任務の一である。この任務は困難な仕事である。祖先崇拜と緊密に結び付いてゐる各種の儀式は、人民の意識の中にすでに深く根を下してゐる。多くの研究家の意見によれば、中國の一パーセントの耕地は墳墓に占領されてゐる。杭州市で喪式のある毎に悪い靈魂を靜めるために焼き捨てる場所の所謂冥土錢（中國では死者の冥福のためにまた神に對する賄賂として錢型の紙が焼きすてられる——日本譯語）は遂に千五百萬元にも達してゐる。そしてこれは決して冗談ではなくて確かな事實である。支配階級の儀式及び慣習は人民を愚弄するための奇妙な形態の一つである。あの時代の一皇妃が自分の脚を包んだのに初まつて、今に至るも七千萬の中國の農業婦人が依然として纏足してゐる。大官僚が指の爪を非常に長く伸すことを必要としたのは彼等が決して労働に参加しないことを表示しやうとしたためであつた。然るに一般の小商人もまた同様に指の爪を伸すことを喜んでゐる。中國農民は自分の手足や齒牙で自分の土地にかぢりついてゐる。だが、自分の父母を埋葬するためには却つて土地を賣却しやうとかまえてゐる。

久しい以前に廢除された制度思想上の上層建築、儀式、及び慣習は労働者階級に對して同じやうになほ極めて大きい影響を持つてゐる。中國の工業プロレタリアートはなほ農村の關係から游離してゐない。労働力の異常なる差異のために發生させる都市プロレタリアートの構成要素の流動、婦人及び農村より投げ出される苦力によるプロレタリアートに對する不斷の補充は、あらゆるこれらの情勢に

應じて發生し、雇主及び労働者の間の部分的な衝突もまたこれらの問題を繞つて爆發しやうとしてゐる。我々がもし革命的労働組合によつて締結された集團的協定を讀んだならば十分にこれらのことを信じたであらう。資本主義生産の不斷性は舊い慣習と並立せず、且つ資本家はすべて無慈悲な闘争を引起して、労働者が親族の喪儀或ひは婚姻の際、及び、血族、家族、並びに村落の祝祭日に際して工場を休むことに反對してゐる。労働者はむしろ毎週或ひは毎月の休息を犠牲にすることを願つても、「自分」の家族の記念日を記念する権利を犠牲にすることを望まない。大都市のブルジョアジーと都市プロレタリアートとの間に於ける傳統上の上層建築の破壊は何れの地方よりも迅速であることを示してゐる。然しながら、長期の革命的な闘争と革命的な掃蕩があつてのみ、あらゆる社會關係及びこれらの闘争に参加する大衆自身の意識は、始めて、かの支配階級の智力にたけた權威と壽命とを短縮させ得るであらうことは疑ひないことである。

ヨーロッパに於ける歴史の經驗は、この事實が決して特に困難なものでないこと、即ち民族的土地所有制もまた同様に極めて久しい間保存されてゐたことを證明する。アイルランドに於ける血族的土地所有制は、たゞ第十七世紀に於いて血族の土地が英國國王々家の所有に變つた際にのみ、始めて消滅させられたに過ぎず、またある血族の土地はなほ未だ血族の指導者自身の私有に變えられてはゐなかつた。スコットランドに於いては、血族内の「有力な人々」は第十九世紀の末に到つて始めて血族所有の土地から完全に驅逐され、それからまたスコットランドの公爵夫人も一八二五年に至つて始めて十

三萬一千匹の羊をもつて血族所有地内の一萬五千人の農民に替えることが出来たのであつた（註十）。中國の北部及び中部に於いては、かゝる氏族による所有制から私有制へ轉化の過程は、數千年以前にすでに極めて明白に終結してゐる。上地關係の一般體系中に於ける氏族所有地の意義及び役割はすでに零に等しい。浙江省に於いてはなほまれに氏族の土地に出遇ふのであるが、全體的な特徴よりすれば、その比重は極めて小さいのである。これサハロフ、ヤキンフ、フランク及びその他の研究家が中國北部の土地關係に於いては殆んど血族所有地について言ふべきものがないとなす所以のものである。そして南方に於いては血族所有地の比重は却つて非常に大である。

廣東省に於ける血族所有地の比重及び意義については、我々はボノリン及びヨルクの蒐集せる最も價值ある材料を持つてゐる。省農民協會の公表せる五十五個の村落の研究の結果によれば、血族所有地は平均して全耕地の三〇乃至四〇パーセントを占めてゐる。省農民協會擴大會議代表の作製せる調査中には十一縣のうちで血族所有地は全耕地の四〇パーセントを占めてゐることを指摘してゐる。更に八十一個の農村について特別研究を續けた後、研究されたそれらの村落に於ける五一——五八パーセントの土地は私有に屬し、三七パーセントの土地が血族所有地の所有に屬し、そしてその他の村落に於ける私有と血族所有地の所有との比率もまた同様であることを證明した。今や、根本的に異つてゐることは、廣東省に於いては血族所有地は全耕地の三〇——四〇パーセントを占めて居り、しかもこれらの土地を借り受けるための借受金は一億乃至一億五千萬を要するであらう、といふことであ

ると断定してもよいであらう（ボーリン、ヨルク共著「廣東省の農民運動について」を見よ）。

タルハノフは廣西省の八つの縣の事情を研究して、農民の土地所有は中農が全耕地の二一・四パーセントを占め、地主が五二・一パーセントを占め、氏族の土地及び宗教會社の土地が二〇・七パーセントを占め、國家の所有が五・八パーセントを占めてゐるといふ結果を得た。（タルハノフ著「廣西省社會經濟機構概論」を見よ）。

福建省に關しては我々は統計的な材料を持たないが、外國領事館、農民協會、及び我々の同志の通信はすべて、この省に於ける血族の所有地が土地關係の一般體系内に於いてなす役割は、もし廣東省より大でないとしても、少くとも廣東省と同一程度であることを證明してゐる。

貴州省及び四川省に於ける血族所有地の意義と役割もまた極めて大である。然しながら我々は決して大ざつばな、また概略的な根據によつ相對的にこれらの省を處理しやうとするものではない。

血族所有地の収入は、いづれの地方に於いてもすべて支配階級の特別収入である。血族所有地の収入は血族内の有力者に高利貸的活動のための道具と民團を組織するための道具とを與へてゐる。商業高利貸資本は生活や宗教儀式を悉く商業化してしまつた。地主や紳士は血族所有地から収入を奪つてゐる。

勿論、土地革命は、紳士共が形態的にかゝる所有形態を自己の領有に轉換させるよりもつと以前に、かゝる土地所有の形態を消滅させるであらう。だが、革命の第一段階に於いては十分な慎重さが

必要であり、革命政權は是非とも農民の生活上の、及び宗教上の偏見を評價せねばならぬ。

北方に於ける祖先の祠堂の土地占有もまたこれと同様の範疇に屬するが故に、その特徴を保存せねばならぬ必要は少しもない。そこには最早や血族は存在せずして、各家族の祖先の祠堂が小部分の土地を持つてゐるのである。南方諸省に散在し、また中國人のために山丘地に驅逐されてゐる半原始的な種族、例へば苗族、獠族、獮族等々、の中では、中國人は未だ彼等の土地を掠奪してゐないし、また氏族的所有制の存在することを許してさえゐる。これらの種族について言へば、我々は少しも知るところがないばかりでなく、また我々は中國人自身もこれらの種族についてはあまり知るところがないものと信ずる。従つて、比較的優れた研究は更に言ふまでもなく、これらの問題の詳細な説述もまた將來に待つより外ないのである。

上に分析して得たる結論によれば、血族及び祠堂の所有する土地は廣東省及び福建省に於いては極めて大きい役割を果して居り、廣西省に於いてもまた相當の役割を務めてゐる、といふことを十分に確信して言ふことが出来る。揚子江流域に於いてもまたなほ血族の所有地に遭遇する。そして北方に於いては、却つてすでに殆んど何等の意義をも持つてゐない。僅かに別個的に富裕な家族が祖先の祠堂及びこれらの祠堂の占有する土地を持つてゐるに過ぎない。

六、共有地 崖や荒蕪地にして未だ何人にも所有されざるものはすべてこれを共有地といふ。人民はこれらの地帯に於いてはすべて雑草を刈り、又樹木の根や雑草の根を掘る權利を持つてゐる。雨水

はこれらの十分に荒れはてた崖からすさまじい急流をなして流れ、雨や風は肥沃な山腹の田畑を破壊し去り土層を完全に押流し、また河水氾濫の危険を増加させるのである。

七、廟宇或ひは共同體の土地 殆んどすべての村落は悉く自分等の「村の祠堂」を持ち、また常に二つか、三つか、乃至四つかの祠堂或ひは廟宇を持つてゐる。一つの廟宇は軍神を祭るものであり、他の一つの廟宇は土地の神を祭るのが常である。廟宇の建築は一般の規定としては村落が負擔する。マホメツト教徒の住居する區域に於いては廟宇は存在しない。大きい村落に於いては、廟宇内には未だにたゞで俸給をもらふてゐる傳道師を養つてゐる。だが、廟宇は普通のカトリック教、佛教或ひは正教の寺院とは些かも似てゐない。そこにはまだ死なない人のための棺桶が保管されて居り、そこにはまた冥土錢、高貴な人々の家族の家系、及び所謂農村の「偉人」及び所謂村落富豪の名簿、更にまた試験によつて學位を獲得するか或ひは官僚と認められてゐる人々の名簿等が貯存されてゐる。ある種の神の紀念祭の日には、廟の内に大宴會が設けられる。だが、普通の廟宇は比較的質素と儉約との目的に適應してゐる。そこには一夜の宿りをしてゐる旅人があり、そこには商賣をしてゐる擔ぎ商人や小商人があり、そこには土地を保護する警備人や郷士があり、そこにはまた一夜の宿りをする乞食もある。廟宇の周圍には市場、旅藝人の芝居小屋等々が設けられてゐる。廟宇はその市場に店を擴げた擔ぎ商人や小商人から場所代を徴收する。この場所代のうち家畜販賣者から徴收する金額は特に大きい。軍隊は同様に先を争つて廟宇内に駐屯して居り、もし縣廳所在地から收税のための官吏がやつ

てくるとすれば、彼等もまた廟宇内に投宿する。一般農村中のあらゆる社會上、商業上の生活は悉く廟宇の周圍に集中されてゐる。

廟宇の意義及び役割は近來特に増大した。土匪の勢力の増大もまた警備の擴張を必要としてゐる。警備人は廟宇の内に居住してゐる。北方に於いては紅槍會の組織を發展させてゐる。夜間は紅槍會が廟内にゐることを必要とする。何故なら、その第一の召集の必要は土匪及び脱走兵の擊滅にあるからである。南方の農民協會がまだ非合法の状態に逐ひこまれてゐなかつた頃には、彼等は常に廟宇内に居住してゐた。都市に於いても同様にまた廟宇があるが、その廟宇はあらゆる商人によつて經營されて居りその役割もまた少しく異なるところがある。

村落の廟宇は必然に土地を所有してゐる。我々は廟宇の所有地が血族、或ひは共同體の土地の殘存であるか否かを知つてゐない。第十九世紀の頃、廟宇の修理の必要からその土地は悉く買収されてしまつた。土地買収のための金は村落に於ける貴族たる買手が中間に立つて掻き集めたものであり、また地方税の名をもつて農民から搾り上げて來たものである。廟宇の所有地を貸付けて得た貸地料は定期の市税の収入と同様に、廟宇の用度品の購入のためのあらゆる支出に消費される。もし、共同體が學校、道路、及び橋梁の費用として要費するところがあれば、これもまたこれらの収入中より支出される。だが、中國の諺はとつくの昔に、村落の廟宇が多ければ多いほど、この村落はそれだけ貧乏になる、と斷定してゐる。廟宇の所有地の収入はたゞ紳士達の財布に落込むばかりであり、また時とし

て村落中の知識的分子の手中に落込むのである。

かゝる所有形態の運命が安固たるものであるか否かは、まだ断定することは困難ではあるが、我々は却つて次のやうな印象、即ち、廟宇の土地は漸次に賣却されつゝあるといふ印象を持つてゐる。苛酷な税金公課、土匪の掠奪、軍隊の徵發、はすでに非常に繁多となつて居るので、我々はなほ常に多くのかゝる事情に遭遇する、即ち、村落内では臨時の費用を支出するために廟宇の所有地が賣却されつゝある。いづれにしても、南方に於ける廟宇の所有地はその血族の所有地に比較すればあまり重要な役割を務めては居ない。それはたゞある一村落中に數個の血族が居住してゐる地方に於てのみ存在する。全村落の住民が悉く一つの血族中に屬する村落に於いては、廟宇は祖先の祠堂によつてとつて代られてゐる。北方に於ける廟宇の役割——は決して土地關係に於いてはなくして、村落の社會生活に於いてゝあるが——比較的特に大きい。革命は將來極めて慎重にまた極めて巧妙に廟宇の所有地を眞の共同體の土地に變えねばならぬ。

中國の農村機構中からは或ひは原始的な村落共同體の二三の特徴を指示することが出来るかもしれない。村落共同體的所有制は極めて早期に一掃されてしまひ、同様に普通の空地（牧場、家畜場等）もまた有力な人々のために強奪されてしまつて居て、村落共同體の示すところの特徴はまるで財政上の行政機關と同様であり、また全村落は完全に依然として連帶保證の方法によつて地租税の徵收を保證してゐる。村落共同體のその他の村落に對する關係に於いては、それは全村落の代表である（灌漑

及びその他の問題に對し。

村落共同體は極めて泰然として、偉大なる帝國の破壊、最も野蠻な民族の罪惡、全都市の住民の滅亡を経験して來た。かゝる事情は、即ち彼等が『數千年來の最も粗暴なる國家形態——東洋的專制主義——の基礎のうち造り上げられて來た』ことである。だが、中國に於ける高利貸はこれらの田園共同體中に於いては却つて大いに異彩を放ち、これらの共同體が一たび商業に引き入れられるや、それは漸次的に税金の徵收者たることを示すに至つた。帝國主義の侵入は僅かに殘存するその共同體の基礎——農業と農民の紡績車及び紡織機との聯合——を破壊した。共同體の解體に従つて、そうした共同體に基礎を置く生産方法、即ちそうした共同體が社會的労働を計畫する國家組織もまた破壊された。

次に、帝國主義がなほ未だ侵入しなかつた以前の中國に於ける商業、高利貸資本、地主の壓迫、アジア的な、或ひは暴政的な官僚主義の氏族及び村落共同體に對する破壊は、アジアに於けるその他の何れの國家に比較するもはるかに強力的であつたことを説明せねばならぬ。イギリスのブルジョアは印度に於いて曾つて社會革命を引き入れた。帝國主義は中國に於いては、たゞそれを促進させ、中國の村落を世界的な商品の流通過程に引き入れ、農業生産の狹隘なる基礎を破壊し、工業を農業中より分轄し、自己の機械をもつて、手の労働の上に築かれた中國のかの手工業を破壊し去つたのである。中國の村落はアジア的な或ひは專制主義的な基礎の上に立ちつゝ、かゝる專制主義の破壊の一原動力へと轉化した。

以上述べ來つた土地所有の形態もまた近代的な土地所有形態に遠く及ぶところではない。以下述べやうとする土地所有の範疇は次のごとくである——。

8、國有地 國有地は次の範疇に分つことが出来る——。

A、荒地 未だ開墾されてゐない土地はすべて過去に於いても現在に於いても共に國家の所有であると認められてゐる。以前の各朝に於いては、土地を農民に分配した。従つて土地の分配もまた爲政者、即ち所謂官吏によつて執行されてゐた。清朝の基礎が定まつて後も、かゝる土地分配の法則は依然として原始的であつた。當時、一方に於ける中國の地主、官僚、及び商業、高利貸資本と、他方に於ける滿洲人との間にはなほ政治的聯盟が存在してゐた。だが、この聯盟の分裂の後には、滿洲人は勢ひ農民の間にその支柱を探し求めることが必要であつた。滿洲人は、移民の過程を促進せしめんがために、荒地の分配及び移民の問題に對する官吏のあらゆる干渉を禁止した。一七二四年には農民に次の如く命令した。——政府當局の何等かの決定なくして農民が任意に土地を開墾する場合には、たゞ何れの幾何の土地を耕作してゐるかを政府に報告して、土地の性質にしたがつて最初の三年、五年、六年乃至十年の完全な免稅を決定して貰ふことを必要とするばかりである、と。

滿洲人支配の當初に於いては、土地の國家による所有に對してもまた、未だ占有されてゐない大量の土地及び未だ私有に變つてゐない大量の土地はすべて國家の所有となすことが言明され、また、國家による土地の所有が決して農民の勞働が土地に加へられることに對する障礙ではないことが言明さ